

九州 山陰 旅行 漫錄
汪洋生

特116

394



汪洋生

汪

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

始





特116
394



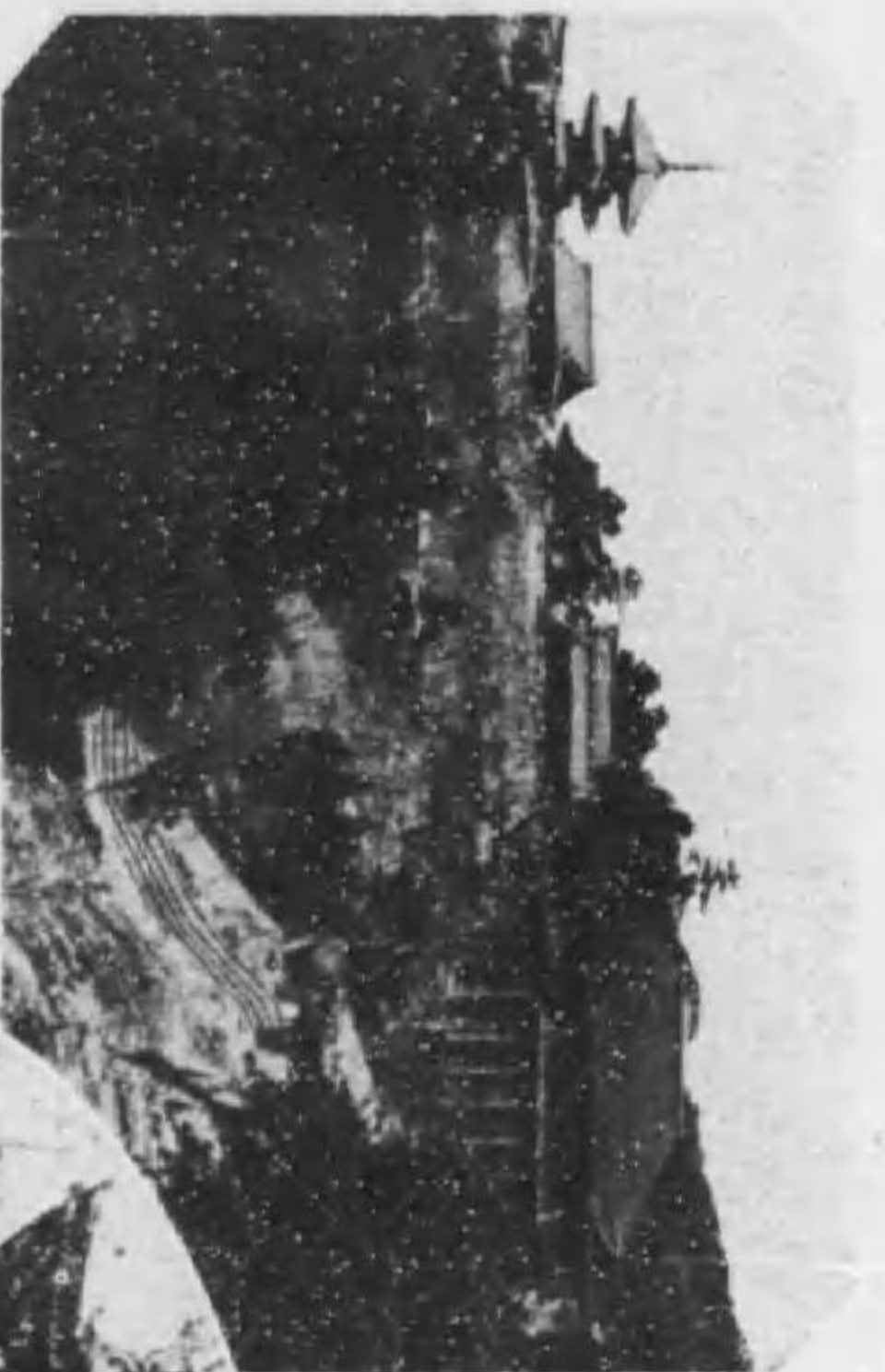
はしがき

本書は昨年五月鐵道協會總會にて九州より山陰地方へ旅行したときの没録であります、大震後焼けたゞれた黄塵の蒼とどぜうの様な生活をして居た小生には、各地到るところの秀麗なる山河、清新なる風光、趣味ある神代よりの遺蹟、傳説の地を遊覽して人生の至樂を感じた次第であります、特に鐵道協會の厚意と各地官民諸賢の懇切なる優待とにて、あだかも放生會の龜の子の如く、のこ／＼と各地を泳ぎまわつたことを厚く感謝致します、深き感興を懐きながら不文にして、情趣を述べ盡す能はざるは全く汗顔の至りであります、從前の寫眞は同行の山本敬藏君・熊谷武君より拜借致しました、又名所舊跡の説明は参考として各地の案内記より採萃した次第であります。

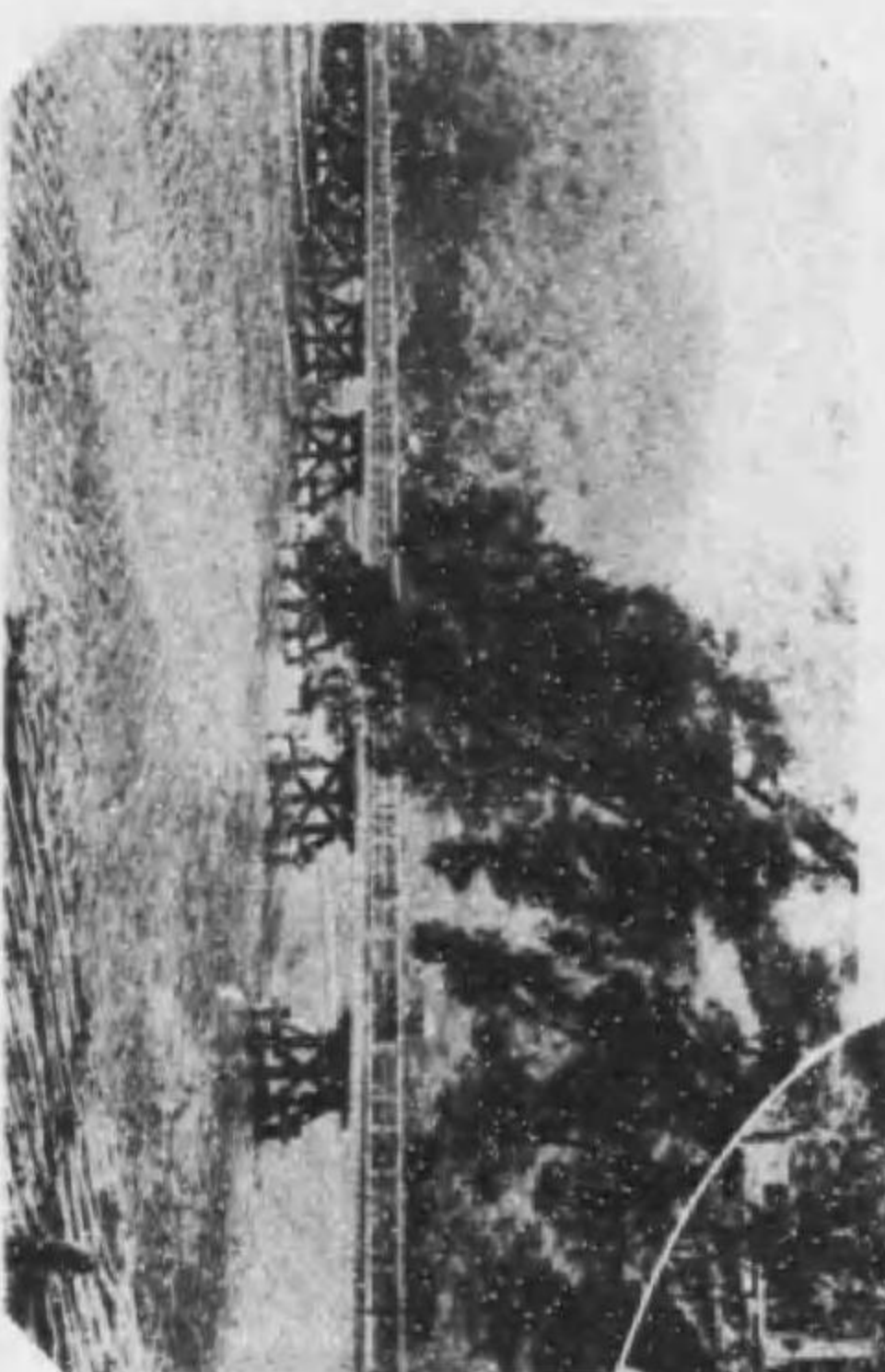
大正十四年九月

島 汪 洋 生

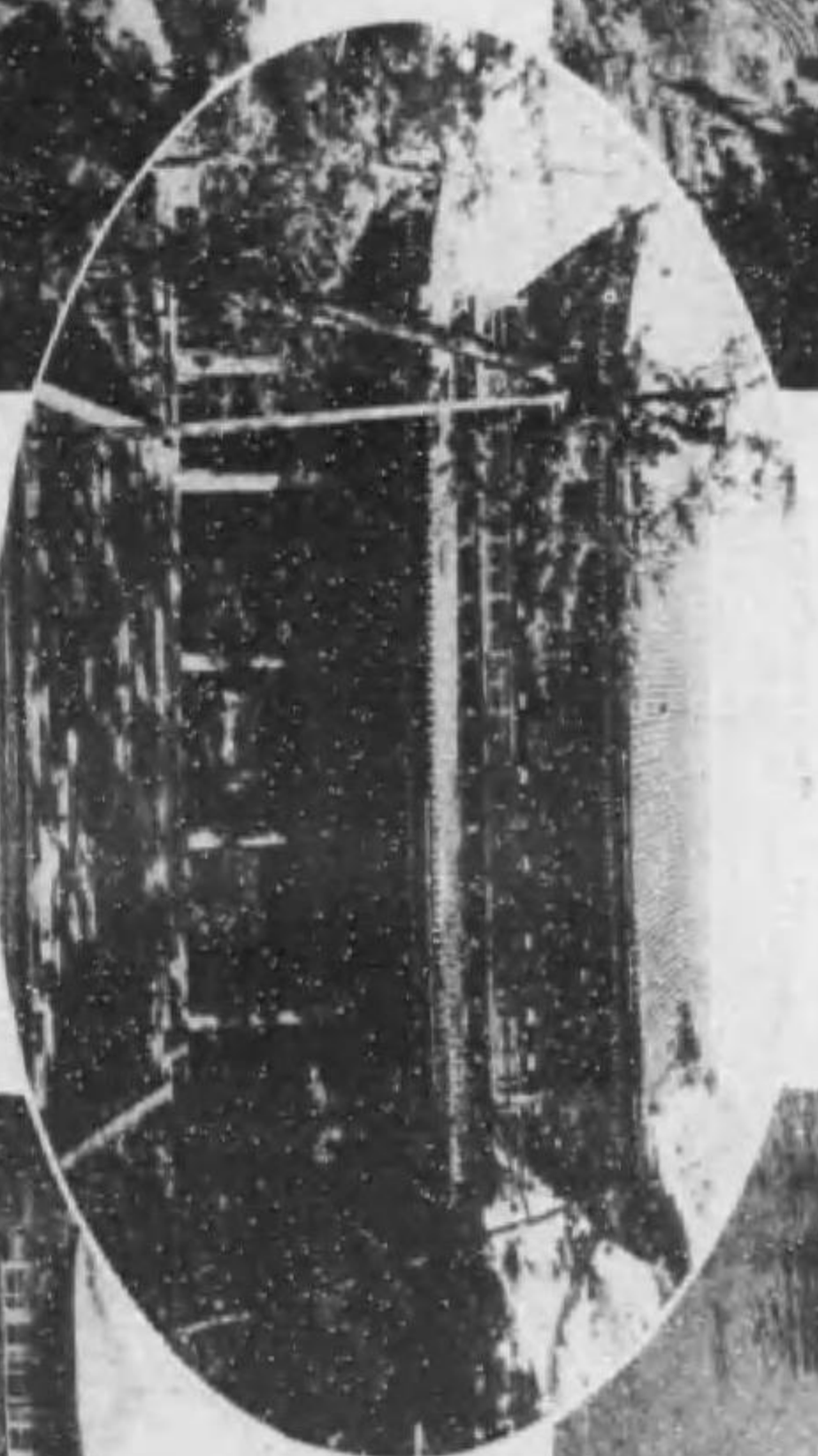
大正
14. 9. 29
内交



清水寺全景

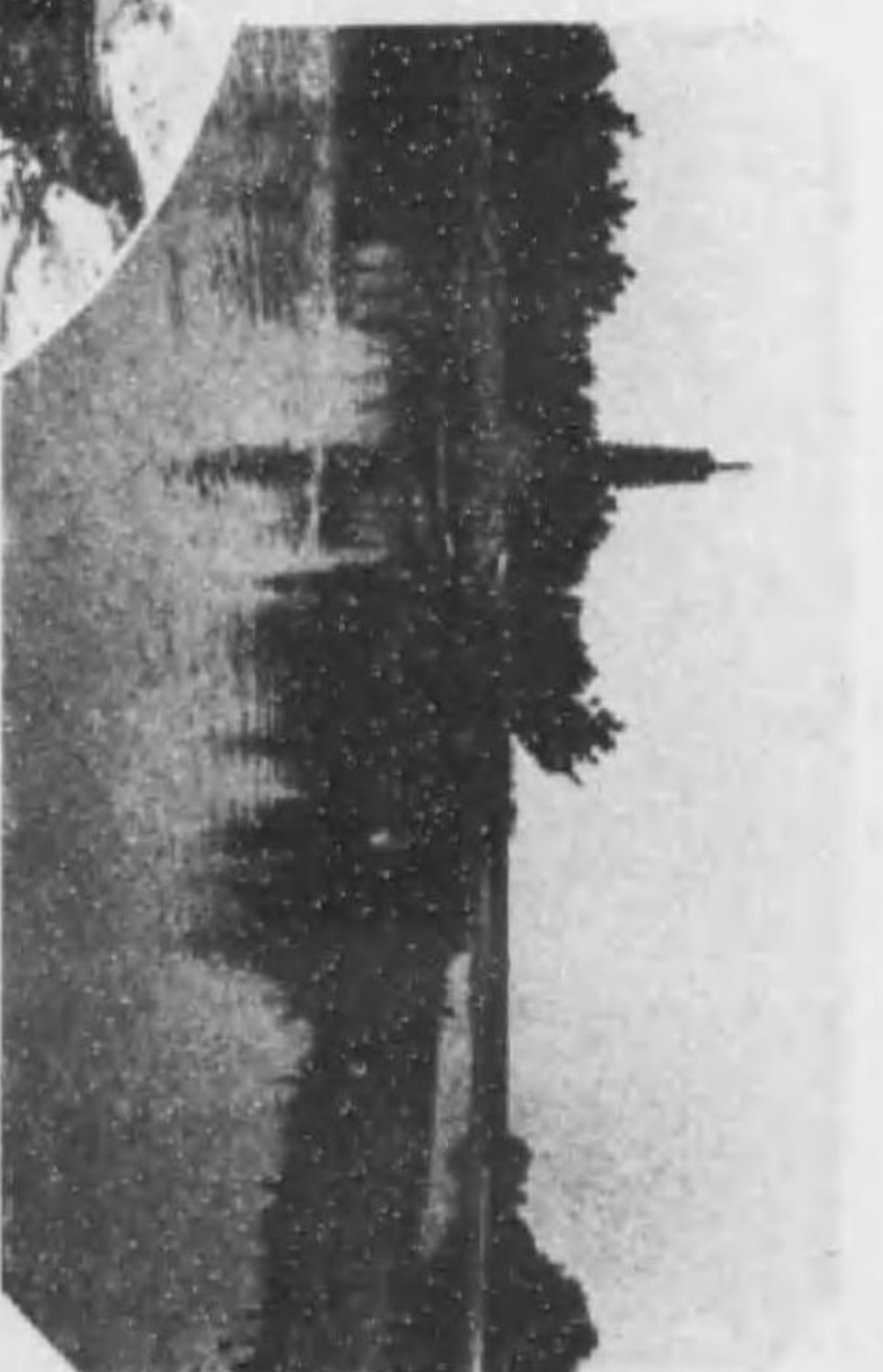


嵐山渡月橋

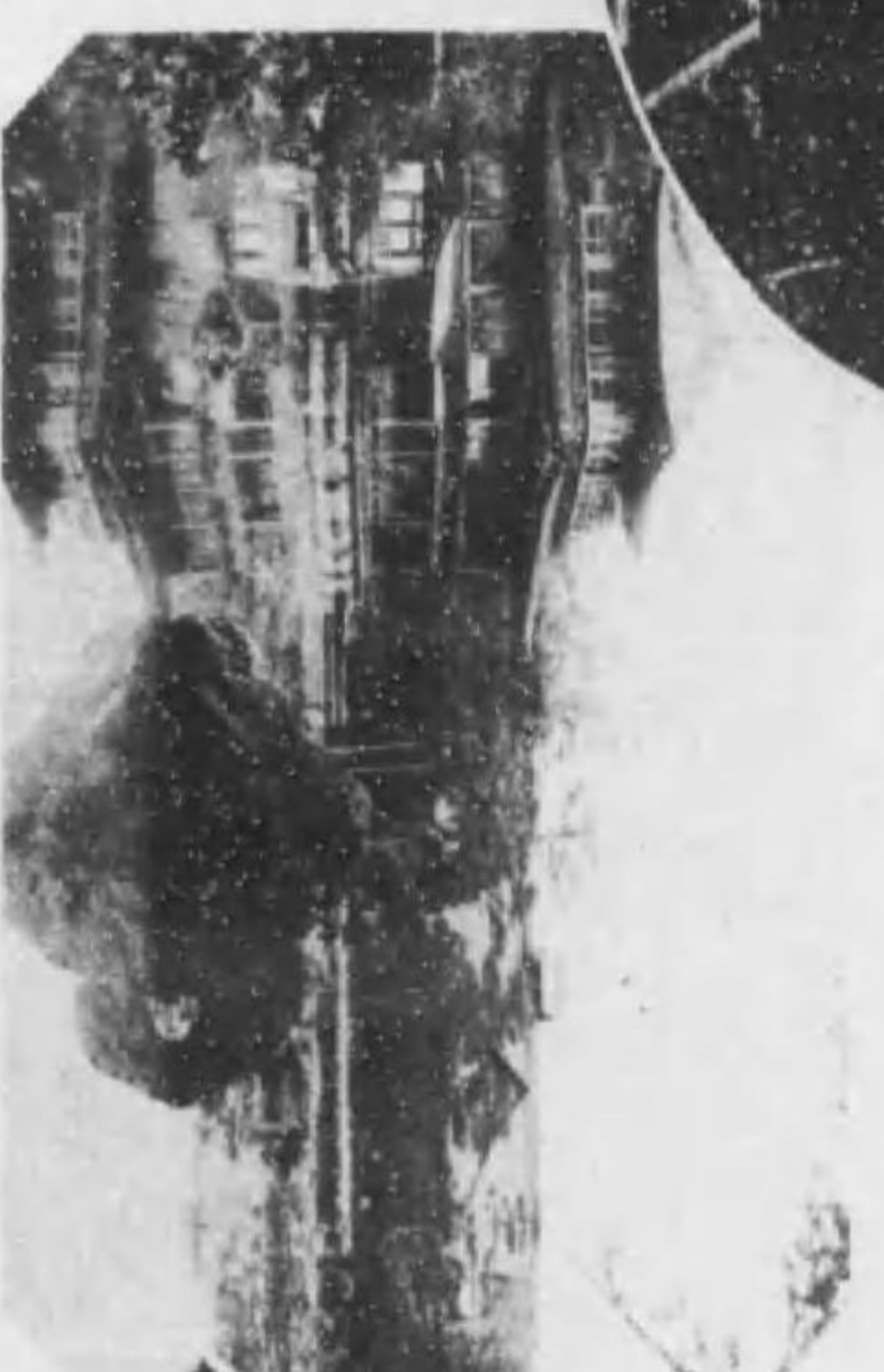


知恩院山門

京都名勝



宇治浮島三塔



金閣寺



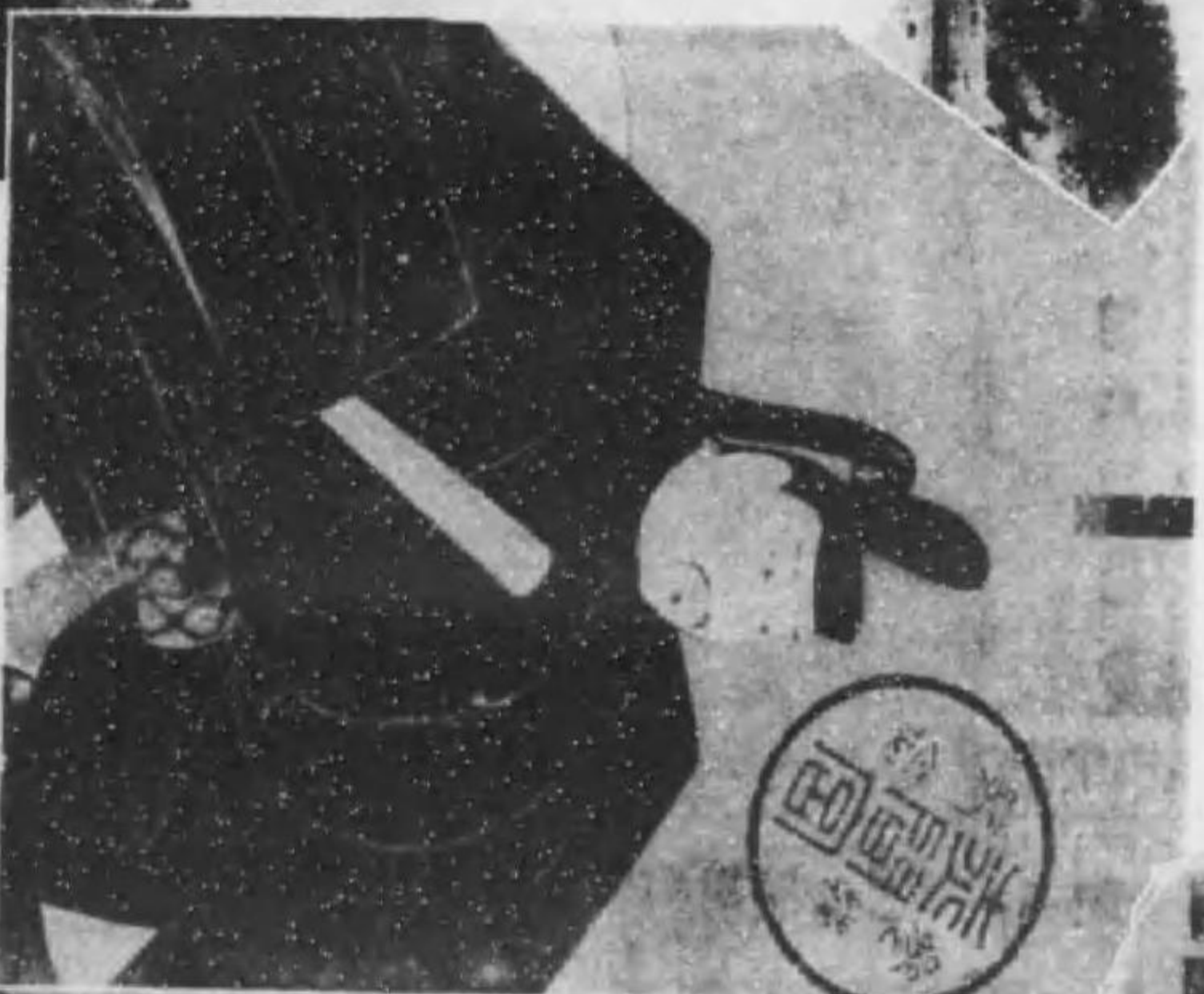
勝名關下

陵仰帝德安

山城王蹟古帝德安



場飛古平源浦の墾



赤間宮寶物の新中納言知盛卿(土佐光信筆)



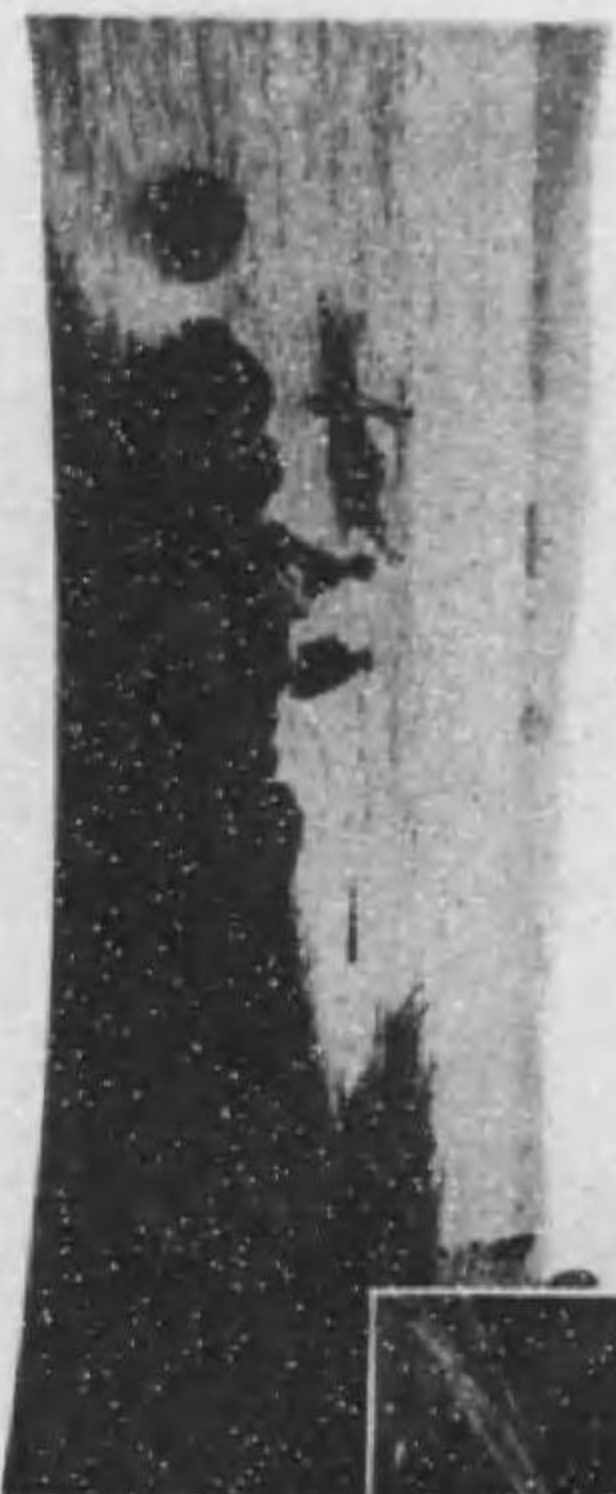
宮間赤



墳古家平



景全の關下



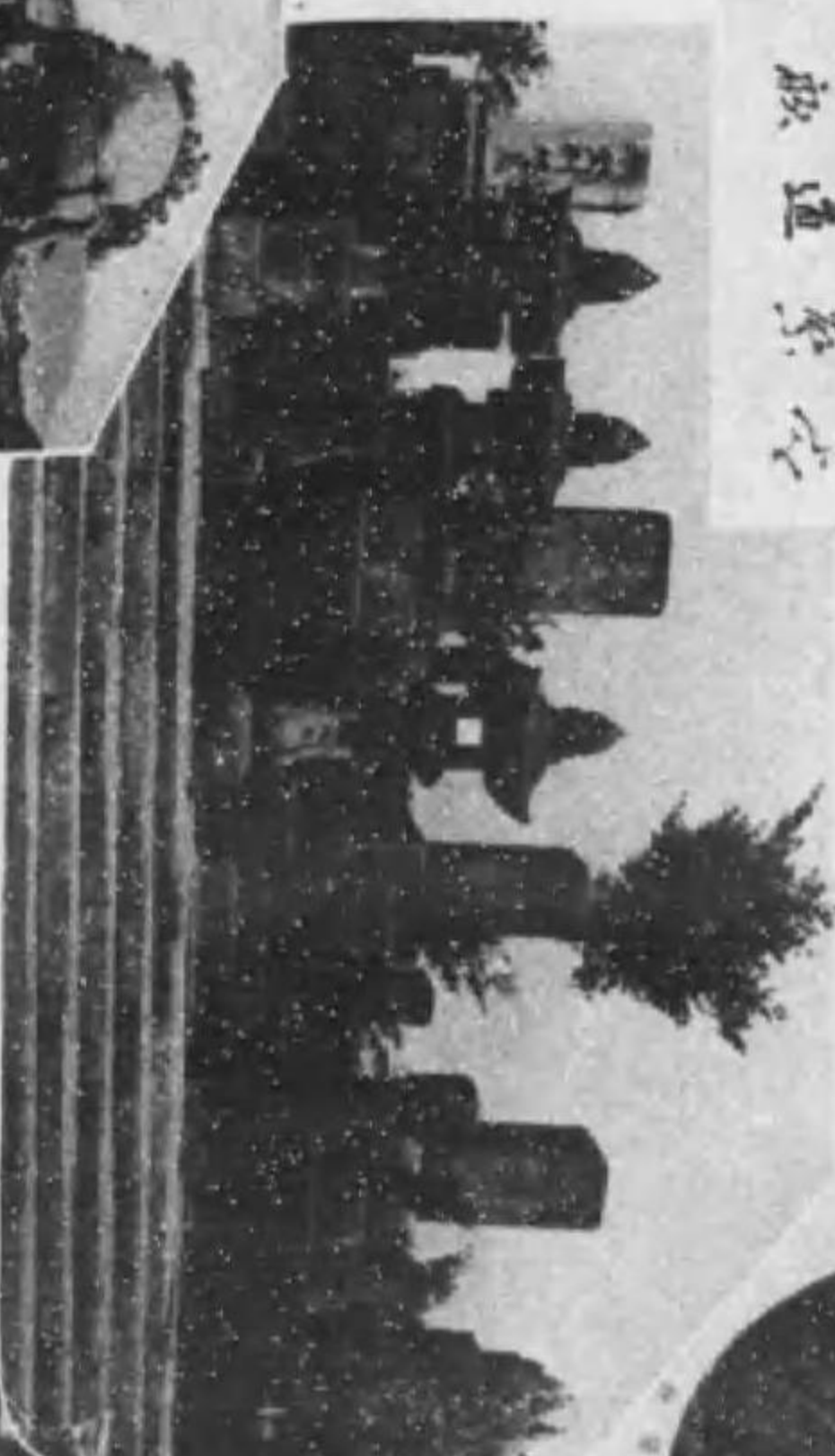
場戰古平源の浦の墾

翁洲南鄰西・公進利保久大



鹿兒島史蹟

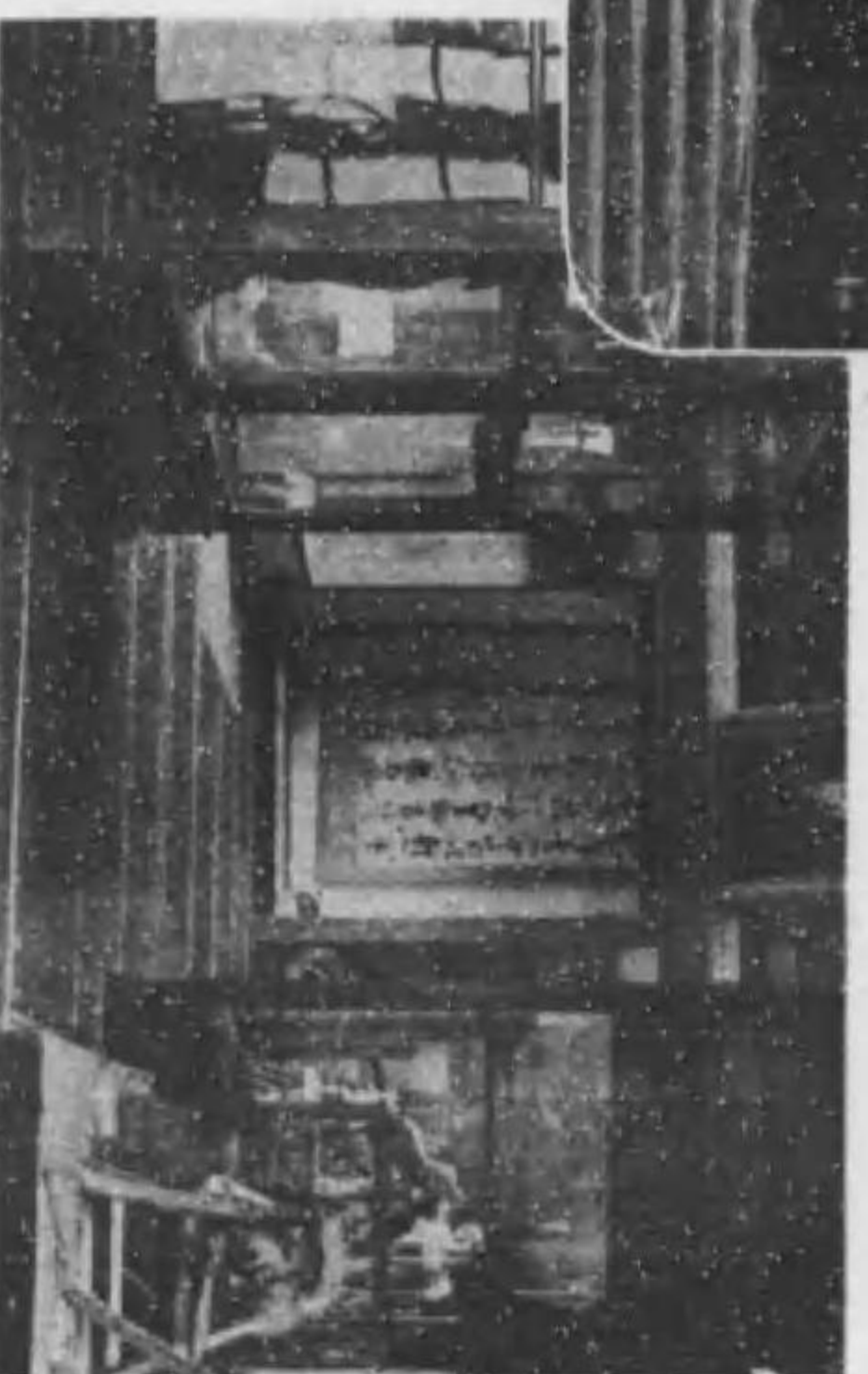
子孫同く我祖也
 一は、唐名を以て、
 此種は、西村卷、道
 長、如、此、一、名、不、取
 必、難、小、二、切、事、
 至、此、亦、其、民、之、情、也、
 心、の、お、喜、び、と、此、の、程、
 極、へ、入、り、お、喜、び、に、候、
 一、句、後、も、一、回、の、意、
 二、本、意、也、



西南戦争の南洲翁以下諸士の墓



根大大大と人婦の鳥櫻

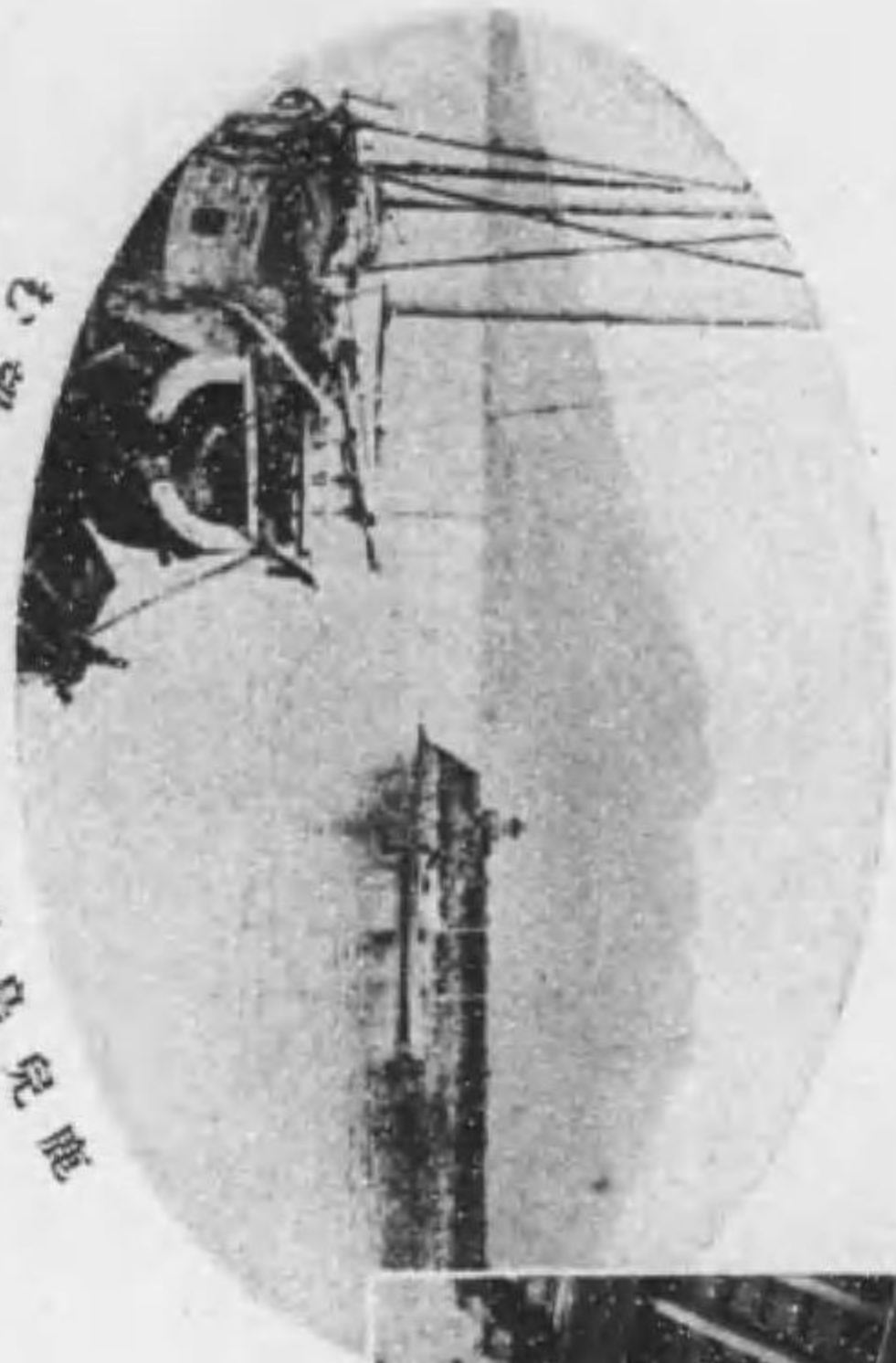


室列陳の館考参育教

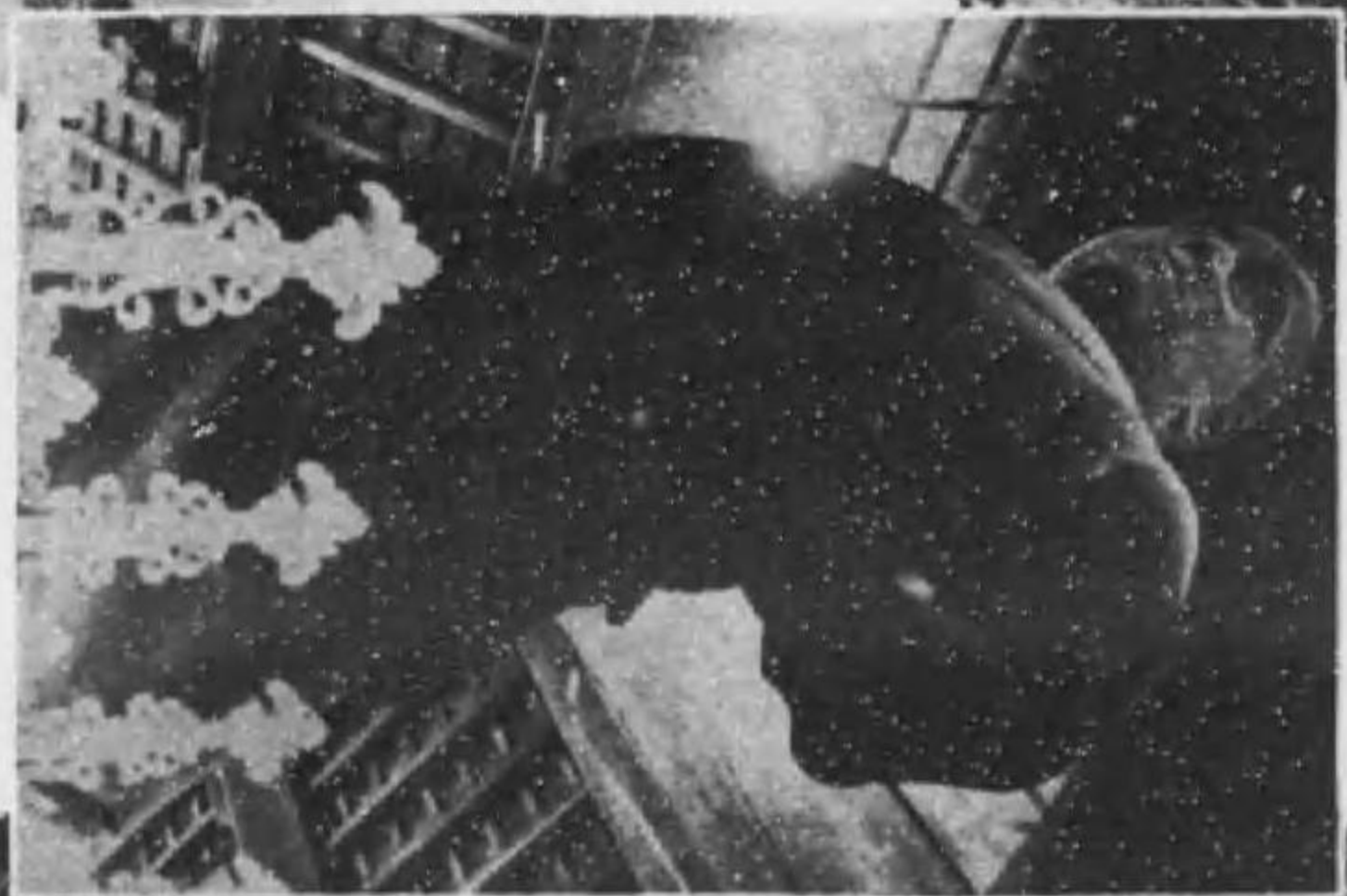
鹿兒島名勝



鶴丸の城跡



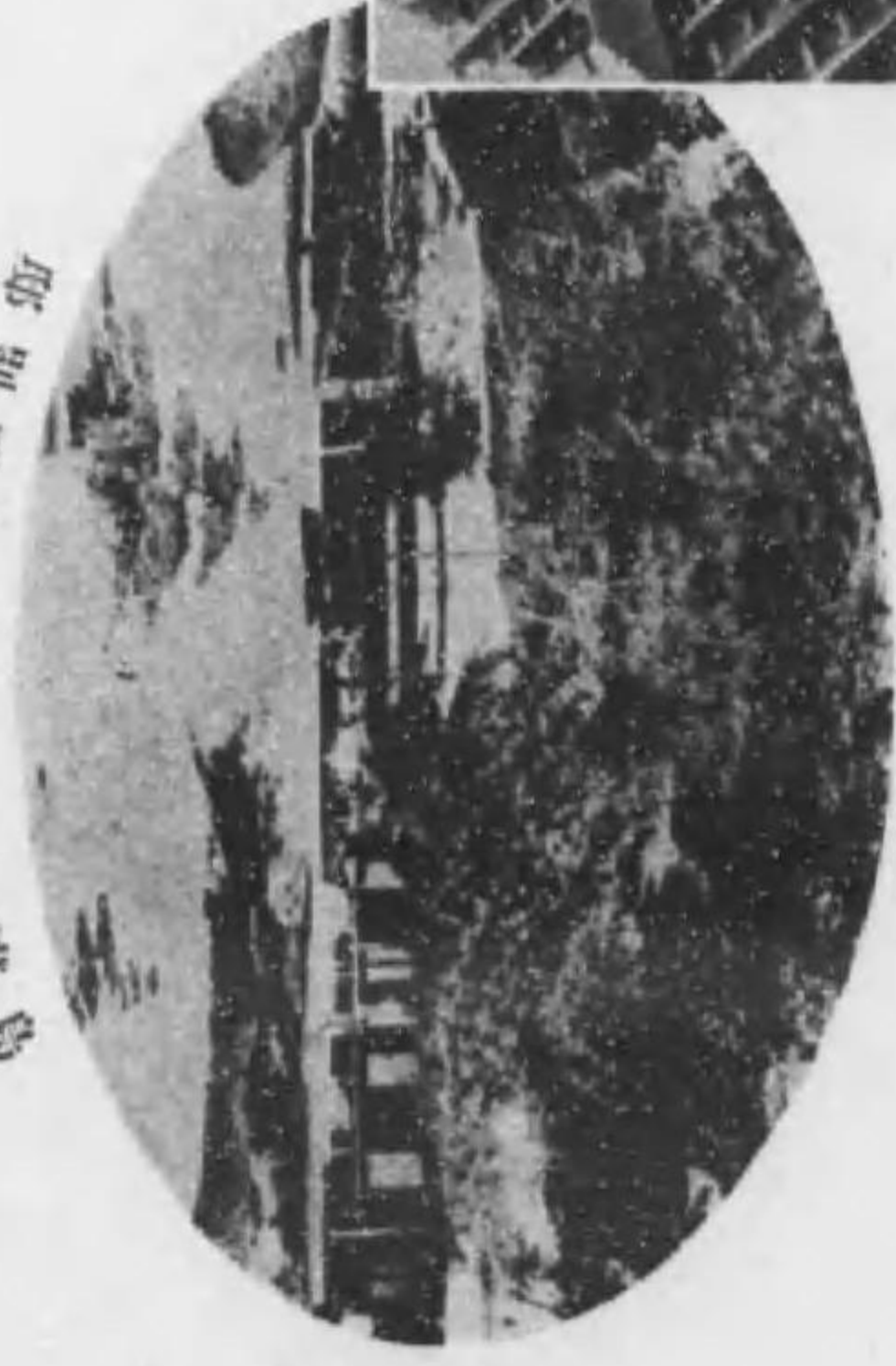
鹿兒島港と椰子島を望む



西郷南洲翁の像
(浄光寺)



櫻島の岩窟噴出の現狀



島津公輝爵士別邸

宮崎日向島青島熱帯植物



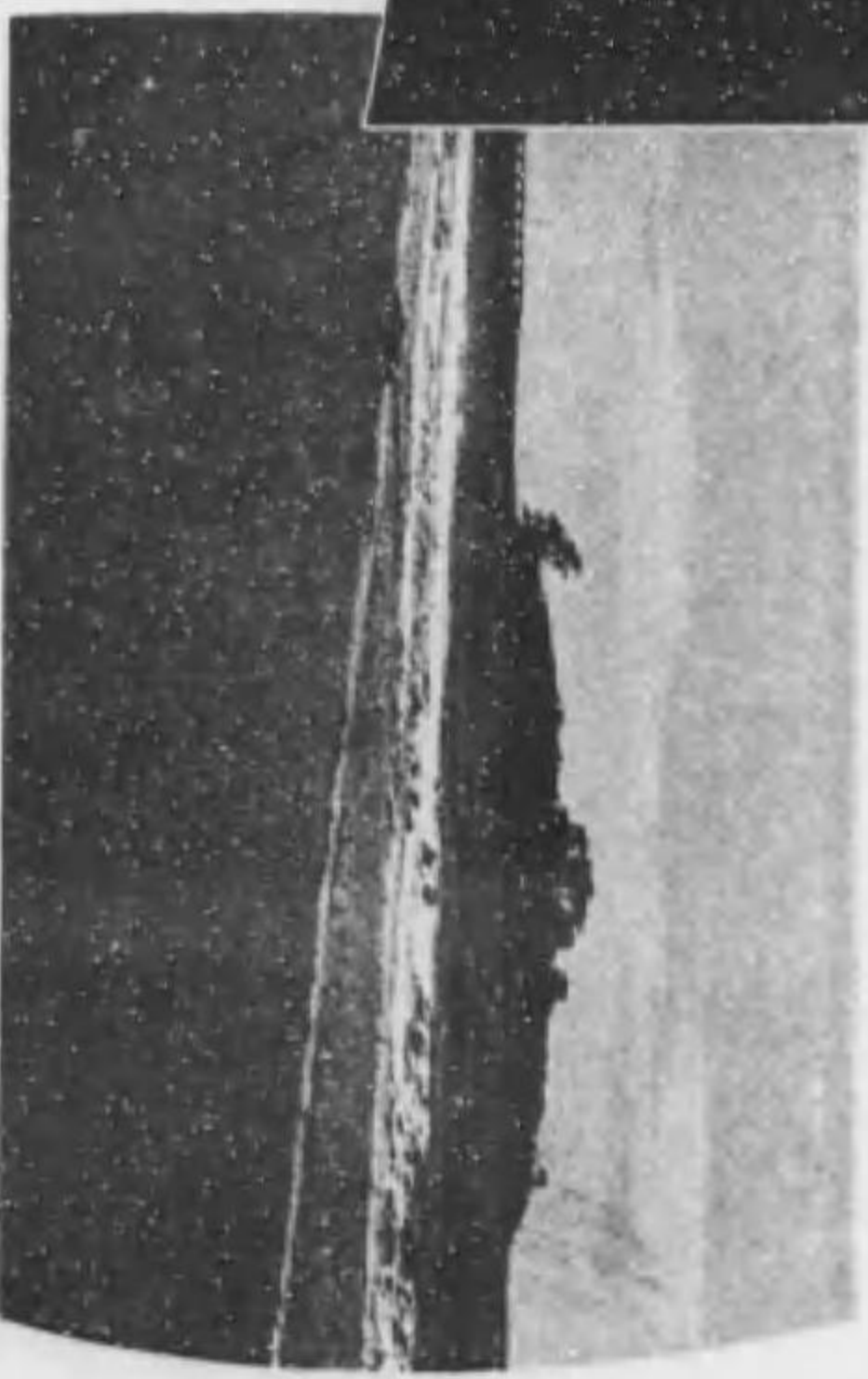
青島のロベロ樹



南洋群島の繁茂



青島の南洋植物



青島神社の内庭の遠景



青島の龜甲岩



塚 穂 狭 女

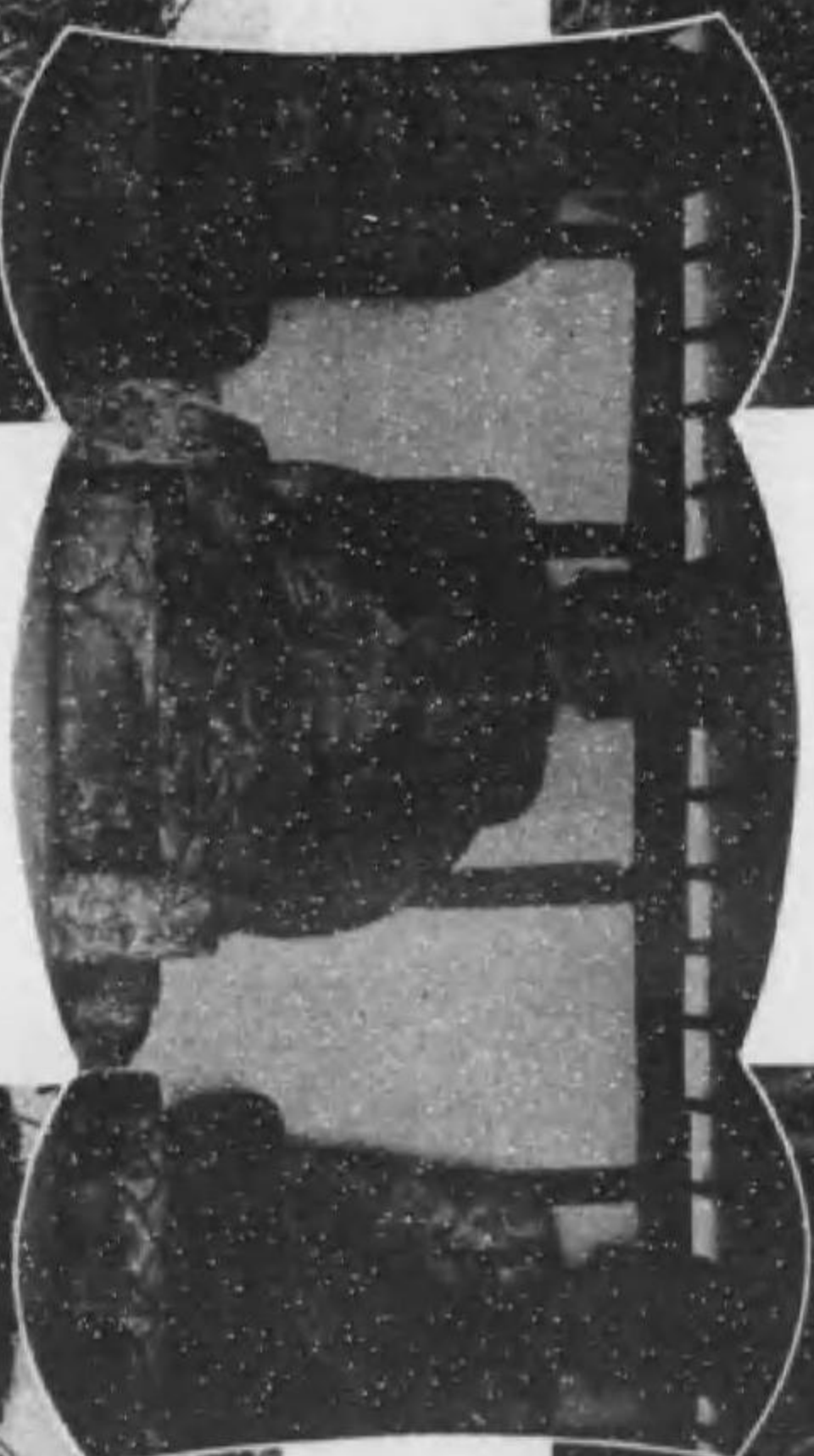
日向國西郡の原
皇祖發祥の
御陵墓參考地



塚 穂 狭 男



場 馬 櫻 社 神 美 都



俄木置安寺分國
(作人上食木)



塚 岩 の 鬼



勝 絶 の り 返 船

耶 馬 溪
の 名 勝



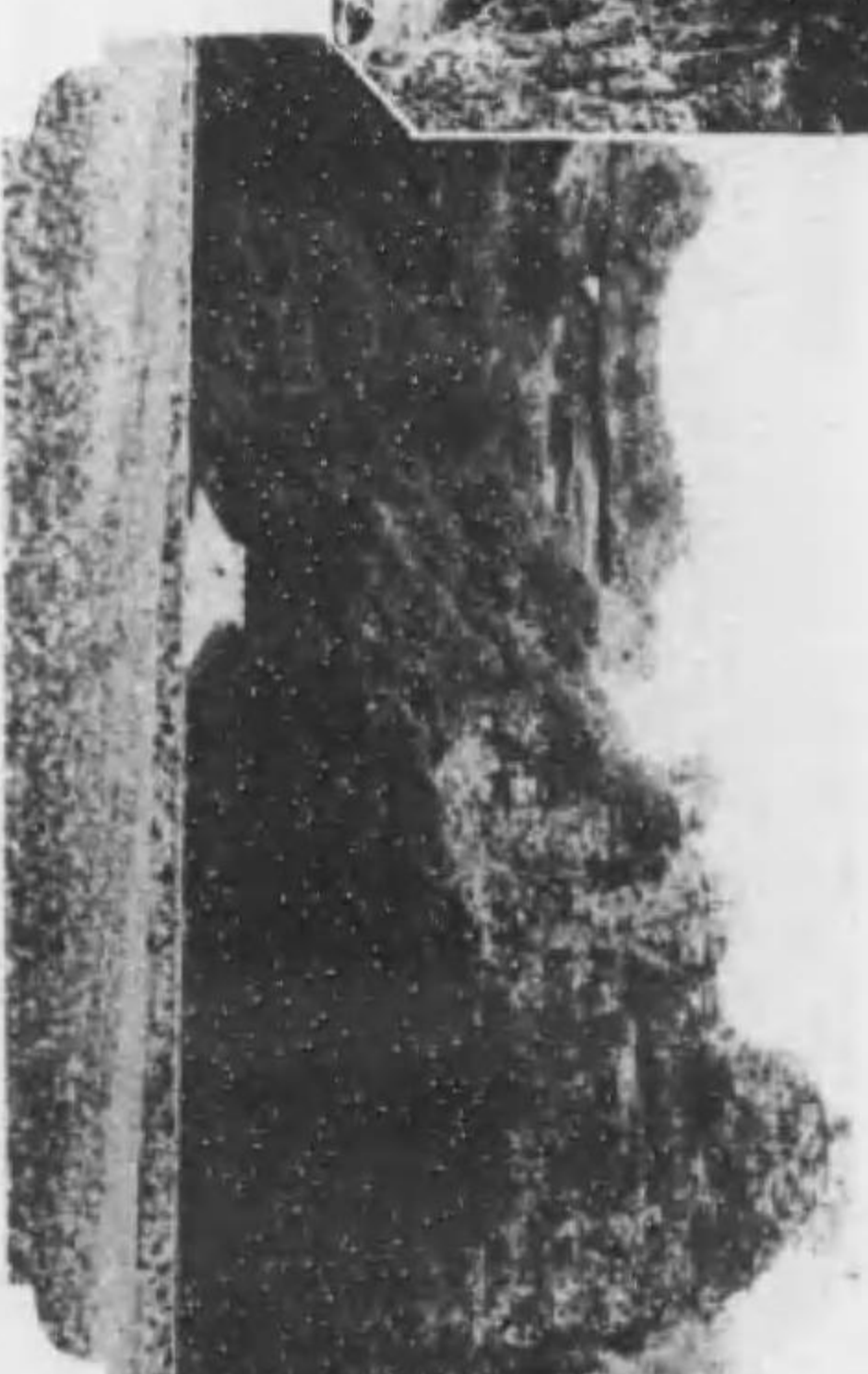
面 側 の 峰 秀 鏡



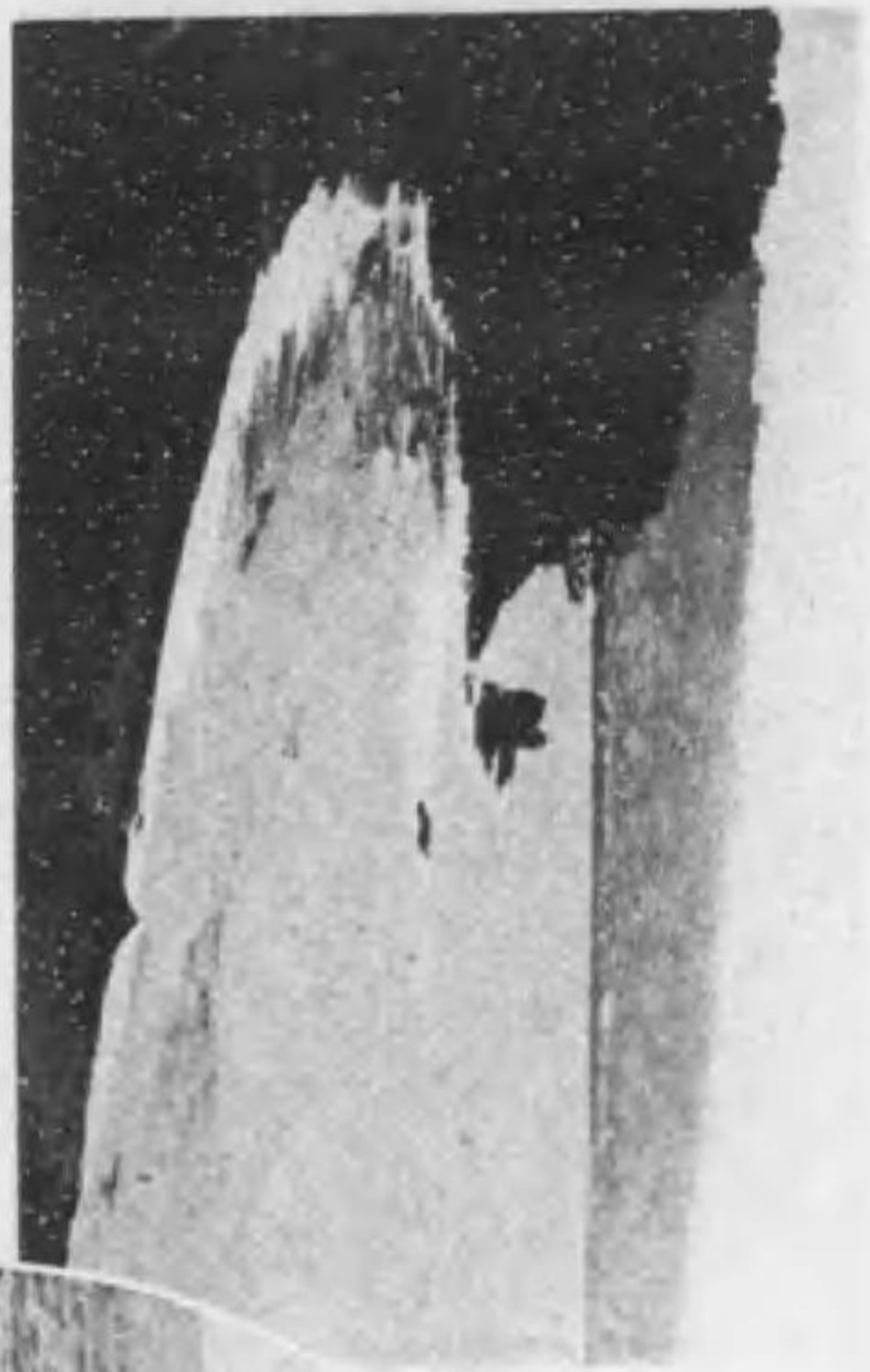
勝 奇 の 走 大



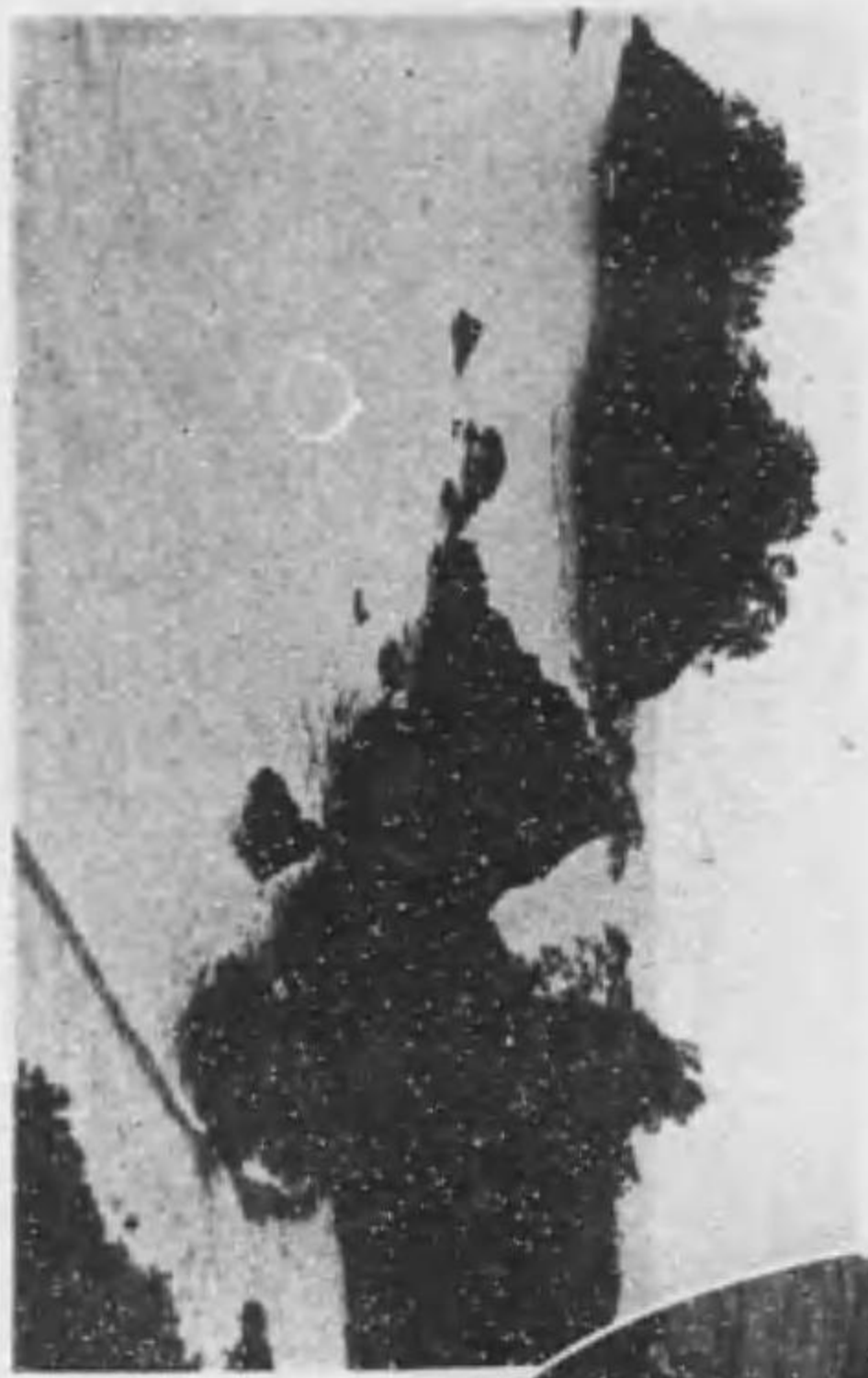
門 洞 の 青



漢 羅 小



(四) 其



(五) 其



(三) 其



(一) 其



(二) 其

九州より山陰へ

(大正十三年五月廿日出發)
鐵道協會總會

島 汪 洋 生

鐵道協會總會の爲め五月二十日夕刻東京驛を出發した、昨秋大震災後始めての旅行であります、東京市内は素より新橋以西大震災後の惨害は、まだく復舊の緒に就かず横濱・藤澤・小田原等の各停車場は素より沿道著名の市街村落も急造バラックで漸く雨露だけを凌ぐ有様で實に同情慘鼻の至りであります、特にある驛では驛長が野天で執務して居られたのを見て實に氣の毒と考へました、東京、横濱のあの股賑なる繁榮や東海道の各地がむかしの繪の様な山紫水明の風景に復活するのは今後幾多の歳月を要するもので實に一場の夢の様に思はれました、唯々國民の自覺奮勵を以てこの難關を突破したいものと獨り考へられた次第であります。

翌二十一日早朝大阪着、原田君柴田君の訪問を受け、車窓より互に無事の顔を見て震災後の談を交々交換して其の儘お別しました、列車中は一行の下村鹿次郎君、初谷藤兵衛君、大野石動君等と同室にて談論風發下村君の種々なる經濟談や初谷君の面白き昔噺して非常に愉快でした、下の關着濱吉支店へ投宿一浴後ビールを傾け漸く息を吹き返した様な善い心持になりました、食後初谷君、下村君と共に市中を散歩し海岸の夜景を賞し、繪葉書を購求して歸宿寢に就きました、翌早朝福岡に向ひ出發しました、朝來春雨しとしとふりそゞぎ車窓の展望をさまたげたので困却致しました。

福岡・博多 (五月廿二日、廿三日)

早朝下の關より春雨の中を沿線の名勝や種々なる工業の情況を車窓より願望して福岡へ到着す、早速市内の知己を訪問す、夫れより九州大學工科農科醫科等を訪問用務を了す、午後市内東公園千代の松原の名勝等を散策し 龜山天皇の銅像、日蓮上人の銅像を参拜し夫れより箱崎八幡宮へ参拜して休養す。

翌廿三日市公會堂にて、總會開催せらる、閉會後有益なる講演會あり、午後より東公園千世の松原にて、協會主催の園遊會あり、地は龜山上皇、日蓮上人の銅像を安置しある歴史上有名なるところで謹みて又々参拜しました、會場は白砂青松の間にて壯大なる設備と種々なる餘興あり、先づ第一の見ものは鹿兒島より特に出張せる、約百人位の棒踊にて師範の吟聲と共に一絲亂れず、ハアハア、カチン／＼と棒を以て踊るのは古來よりの尙武的精神を發揮したる餘興で愉快でした、第二は佐賀縣鶴崎より特に出張したる、約二百人位の鶴崎踊りの一行にて、是れは良家の子女で男女の小學生や中學校高等女學校の學生が主なるものです、先頭には老年中年男子の淺黄の頭巾に茶色の手甲、白の脚絆の山伏姿、二番に中年女子の金冠りに水干の官女姿、三番四番と夫れ々々の假裝にて手付きと足並を揃へて極めて閑雅に、極めてゆるやかに中央の小高き櫓の音頭や笛に連れて終始無言でゆつくり／＼踊るのは眞に幽雅なもので百年位の昔に生れた様な心持がした、其の外博多、福岡の美人連の餘興と、ヲデン、燒鳥、團子等の御馳走にて頗る愉快な園遊會でありました。

翌廿四日は福岡市と福岡商業會議所主催の歡迎園遊會が西公園に開催せられました、此の地は博多灣を一時に眺むる風光絶佳の處眞に樂天地だと思ひました、主客側の挨拶が交換されると、余興が開かれまして、福岡、博多の美人連が優待至らざるなく、博多ニワカの滑稽、博多音頭等の餘興がありました、主客歡を盡して散會しました特に博多名物團子の杵取りが歌の節面白く團子を作るのは昔し東京にもありましたが面白いものです、夫れより一行 官幣大社香椎宮へ参拜しました宮は古來歴史上有名の地で、神功皇后三韓征伐時代の大本營のありし古跡の地であります神社では特に一行の爲め神樂を奏せられ獅子舞の拜觀を許されました此の幽雅な神境で雲煙の間洋々たる支那や朝鮮との外海を遠望しつゝ其の獅子舞を見るのは吾が日本の建國に多大の關係を有するものゝ様な感が致しました、古式簡素な太鼓の音に合せてコツクリ、コツクリと大きな口を開けて舞ふその獅子は確に男性的で尙武の面影があります必ず深い故實の有る事と考へました、境内には神功皇后の大本營の古跡と應神天皇御降誕の御遺跡が保存されて有ります一行は皆々謹みて参拜致しました、夕刻より市内運輸業組合の歡迎會が博多劇場で開催せられ種々なる餘興がありました一行は連日福岡、博多の官民有志諸賢の多大なる厚意に對して深く感謝の意を表しました次第です。

博多灣附近しるべ (博多灣沿線案内拔萃)

松林横截大洋湖 萬疊波間碧一條
此景何緣在西僻 直須奴僕命天橋 (頼山陽)

【縣社宇美八幡宮】

祭神 右殿 (住吉大神) 中殿 八幡大神 左殿 (神功皇后) 寶滿明神
應神天皇御降誕の聖地である、拜殿の左にある大なる槐樹は皇后此木の枝に取縊らせ玉ふて御安産あつたので子安

の樹と尊崇する。

産湯の水、湯蓋の森、衣掛の森は皆降誕に由緒の靈泉神樹である。
安産の祈願をこむる参詣者常に絶えず、降誕祭、子安祭は賽者數萬に及ぶ盛況である。

朝日指香椎の杉に木綿掛けて

曇らす照せ世を産の宮 (西行法師)

諸人をはぐむ誓ありてこそ

うみの宮には跡をたれけめ (家隆)

【寶満山】

海拔九百三十米突造化神秀の鍾る所凡筑紫國の總鎮守である、山相雄偉壯大、嵯峨として聳え雲霧深く覆ふて烟氣常に絶えないから竈門山とも云ふ。千子落は良工の斧鑿も遠く及ばぬ、直截數百丈肌に粟を生ずるばかりである、山中に五水七窟其他神仙の靈跡が多い、竈門神社は山頂に、祭神は玉依姫命である。

寶満山の日出拜、寶満の紅葉、寶満の峻嶮、寶満の展望は古來著名、登山者は年一年毎に多い。

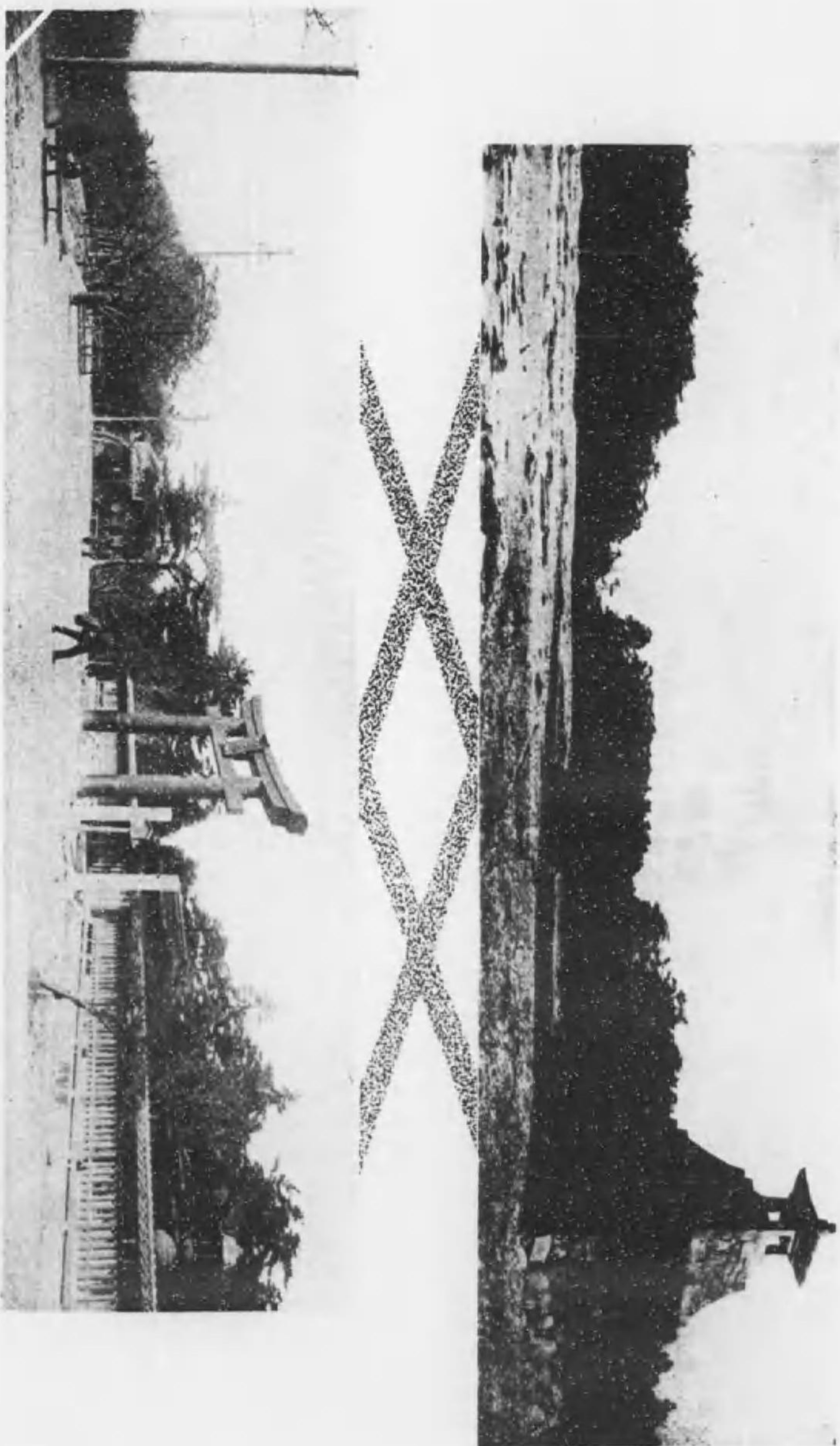
竈土山また夜をこめてふりつもる

みねの白雪あけてこそみめ (大江匡房)

【大野城址】

天智天皇の四年に築かれた太宰府の複城で、我國築城の始めである、四天王寺の創設があつたので四天王寺とも云ひ又大城山とも曰ふ、標高四百十米突。

光風の濱の崎室・勝名多博・岡福



絶秀の社神雲光・園公西

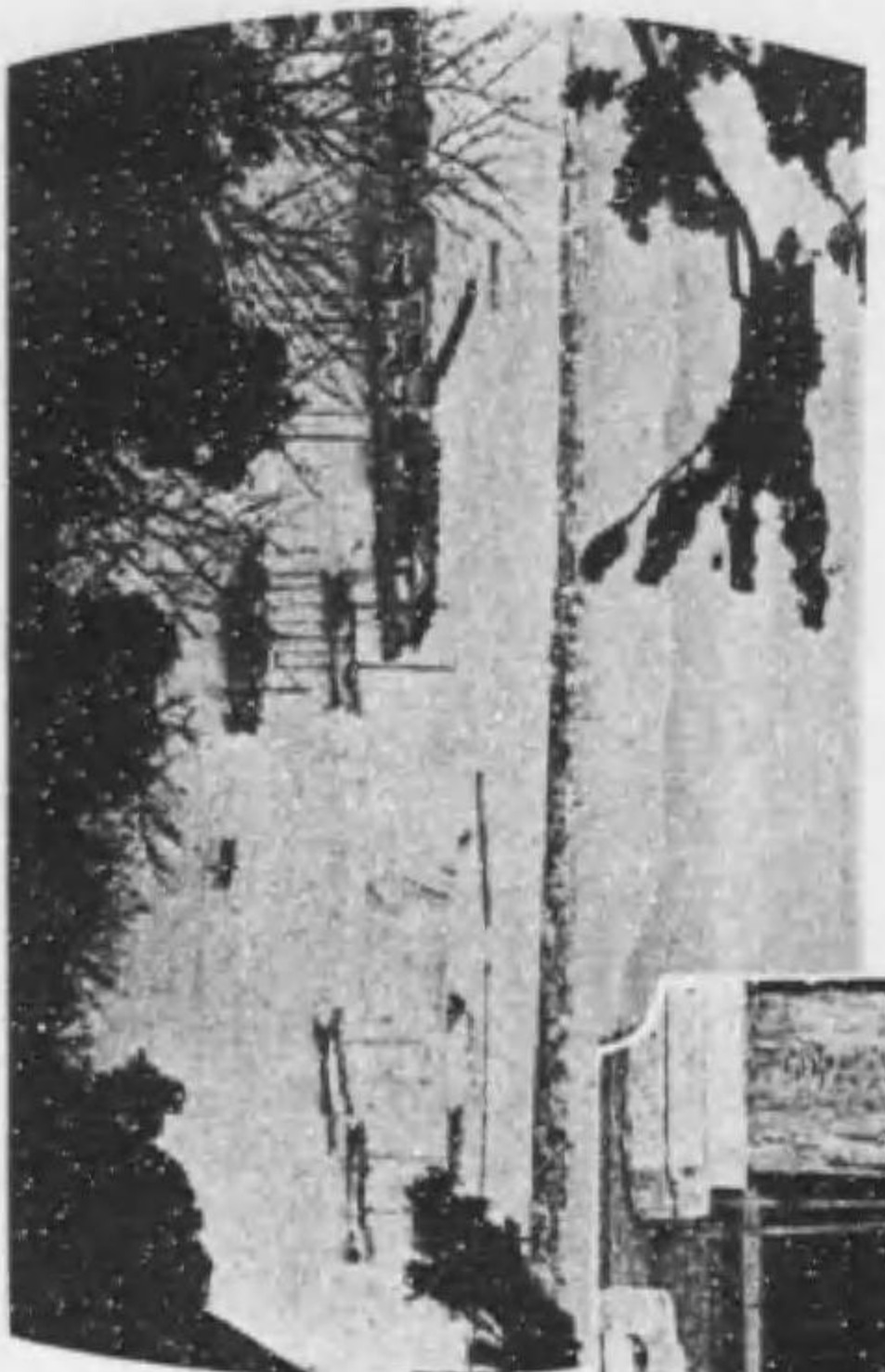


福岡・博多
附近の名勝



原松の代下

太宰府の趾



西公園の遠望

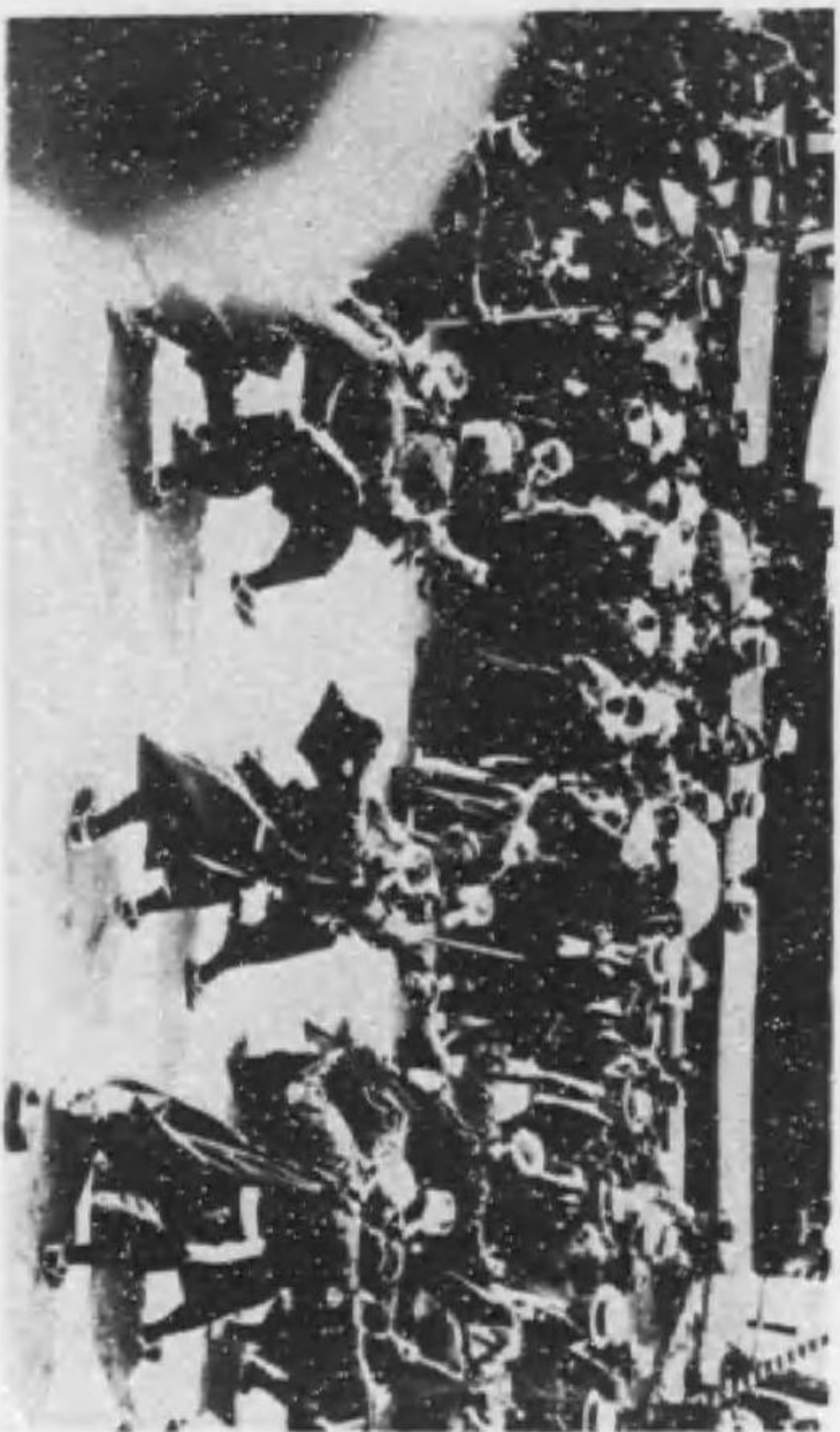
箱崎八幡大社



生松原博多灣の風景

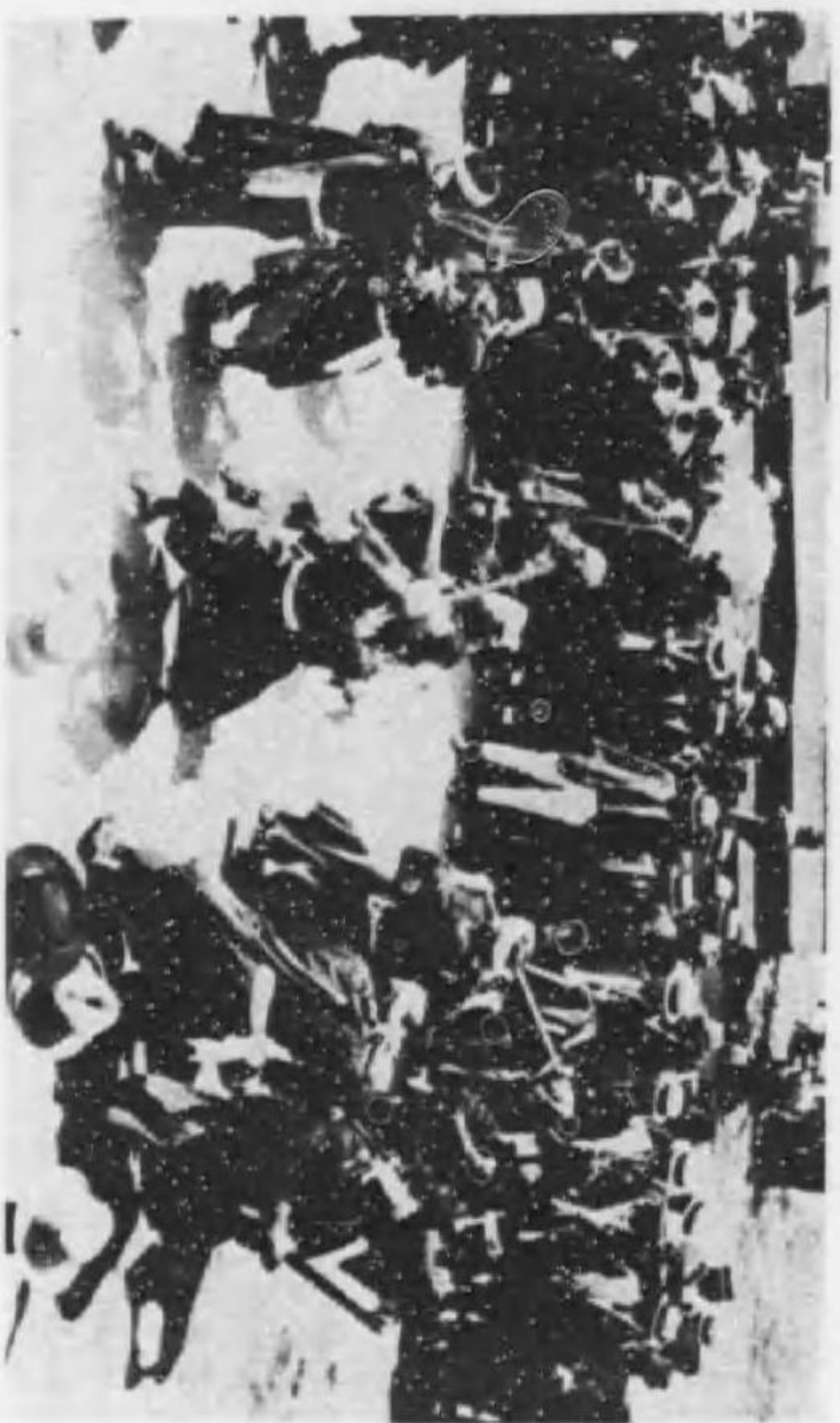
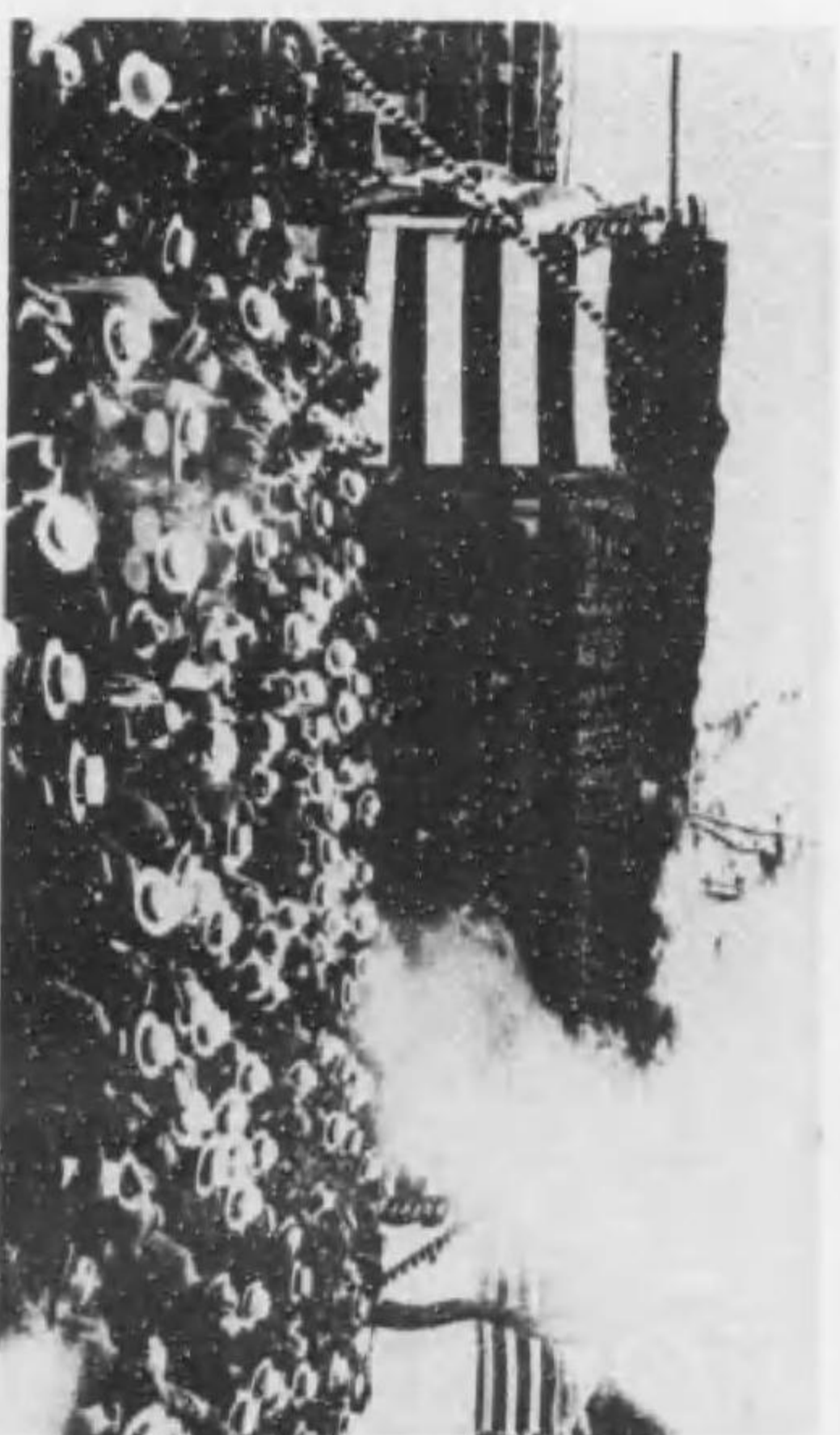
福岡・博多園遊會の餘興

留衛的武藝的なるまじり



(其一)

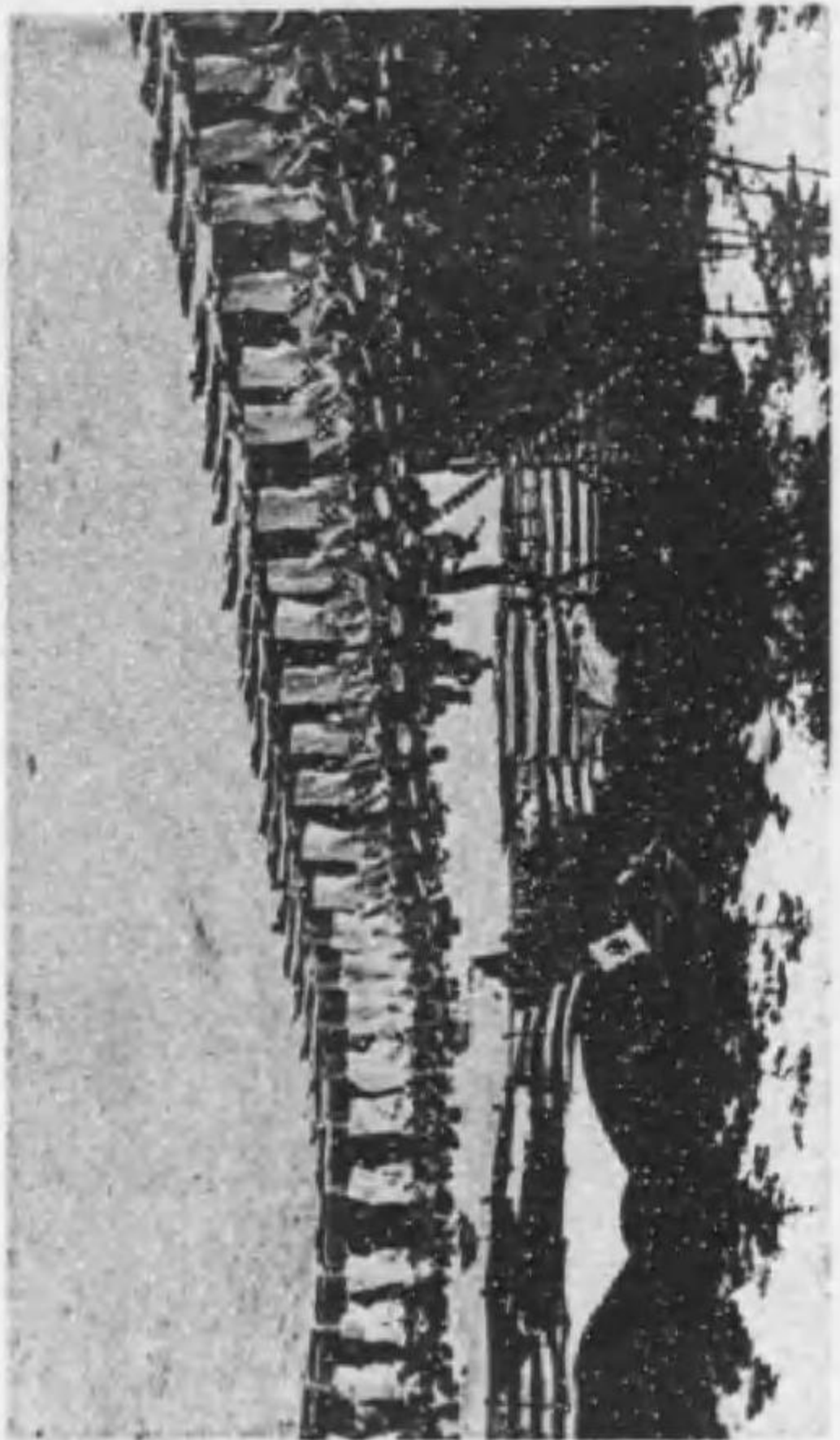
大園遊會の餘興(福岡美人那り)



(其二)



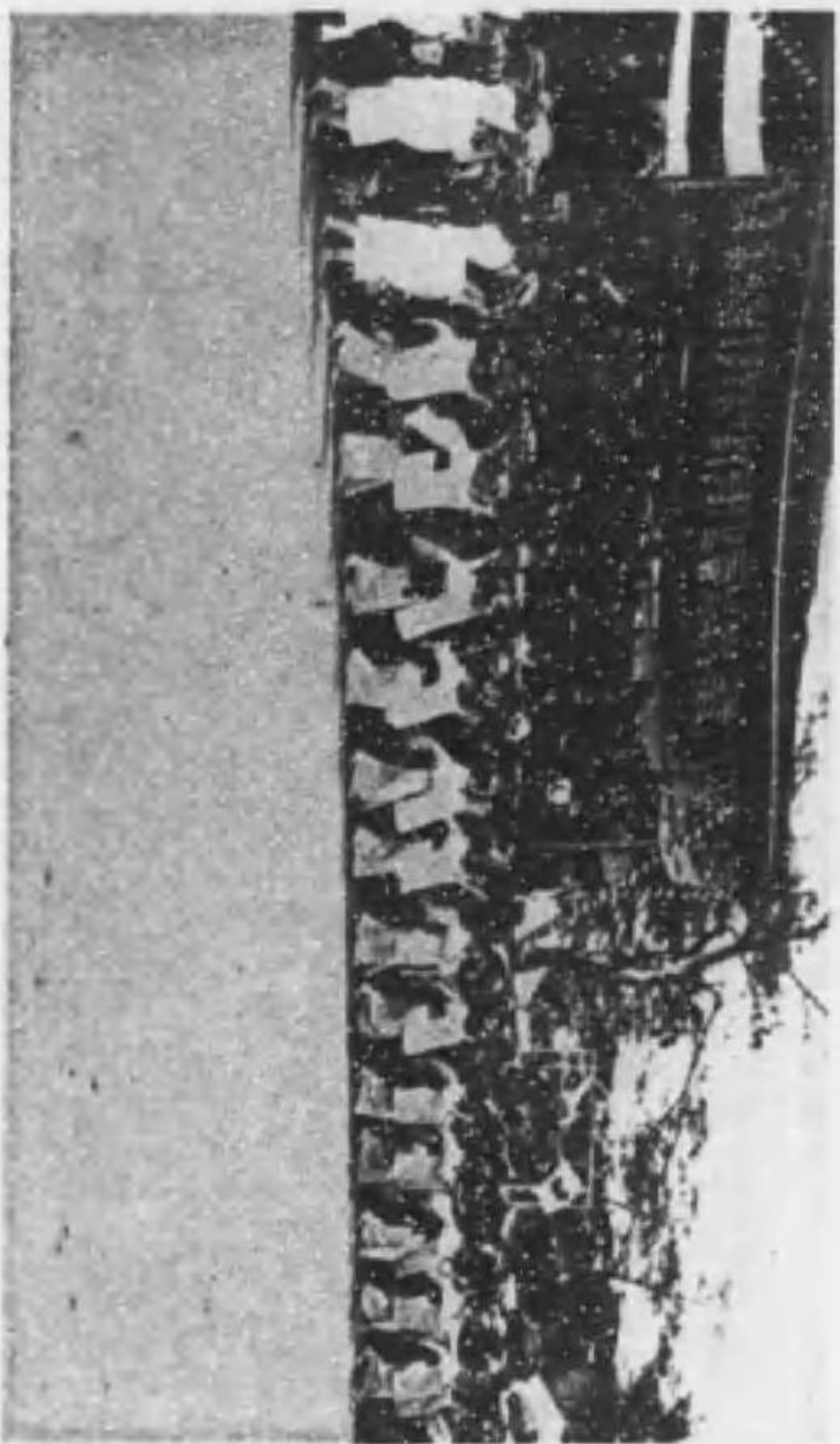
大歡迎會餘興(三味線人に入りて舞作る)



(三 其)



(一 其)



(四 其)



(二 其)

大野山霧たちわたるわがなげく

おきその風に霧たちわたる (山上憶良)

【官幣中社太宰府天満宮】

菅原道真公を祀る、社殿廻廊壯嚴、神苑廣豁、園内梅樹數千株、瀑布かゝり清泉流れて眞に仙境である、廟前玉垣を周らした菅公遺愛の飛梅は千古の香を放ち池畔の老樟は壽として往時を想はしむ、

上下の崇尊頗る厚く賽者の多き縣内第一である。

神筆の五言絶句、法華經、神劍、三聖の銅像、蒼創日記、明劉世儒月梅の圖、雲龍の水瓶等は天下無二の寶物である。

七字靈光光日東 照臨赫赫在儒宗

斯文興越翼神助 千里飛梅一夜松 (中江藤樹)

近傍に次の舊跡名所がある。都府樓址、觀世音寺、菟萱關、水城、榎寺、天拜山、武藏温泉等。

新博多・和白間

山笠、松囃子、仁和加で知られ、博多小女郎の戯曲を産み、人形、織物、絞りで名高い博多と石堂川口を挾んで相距る事僅に一町餘り、新設線の起點であり博軌電車との連絡驛である、新博多驛を發車して海岸に沿ひ東すれば右は千代の松原つゞき、左には天の橋立の更に大、山陽をして此景何に縁てか西僻に在ると惜しませた海の中道の風光を擅にする事が出来る。

伏敵門頭浪拍天、あたり燈籠の建てるあり、春風秋雨幾十年を経たであらうか、思ひは六百五十年の昔に還つて執權北條時宗の果斷——海を壓して來寇した元軍十萬の艦艦幾千——龜山上皇伊勢大廟の御祈願——我將士の善戰——日蓮聖人——颶風——敵船覆没——生還唯三名——史實を偲ぶのである。

宮崎松原驛を出て多々良川にかゝる間眼界開けて景益佳、肥筑の連山は繪の如く白帆泛ぶ潮は藍碧に松青き長汀三里海の中道は砂倍と白いのである。地藏松原の北端を横ぎり勝地名島を眺めつゝ進む、名島川拱橋上右顧すれば遙に寶滿、若杉、脊振の諸峯を雲際に見る、左眺博多灣の風光は尙追従するものゝ如く視界からはなれないのである。

多々良川を渡る。多々良川、多々良川。菊池——足利すぎにし延元元年激戦の跡や此處、僅かの小勢に懸立てられて一陣の軍兵三千餘騎多々良濱の遠干潟を二十餘町ぞ引退きける濱や何處と、伸び上りく振り顧りくする程に名島驛につく。

日本武勇傳中の第一人者薄田隼人兼相を出した名島は名區であつたが、いつともなく發電所は建てられ、停車場が開設された、誰か十年前に今日の變遷を豫知し得たであらう、昔ながらの波打返す磯には帆柱石のみが遺つてゐる、神功皇后の御遺業を追憶へとばかりに、名島の切取りを突きぬけて香椎潟に出る。

鹽たれば蟹にも袖を香椎潟

磯菜つみにと波を分けつゝ (信 實)

夜半に啼く千鳥も聞かれば磯菜つみの蟹ならぬ麗衣の人も交る貝掘りの群も見らるゝ香椎潟を横斷して香椎頓宮下で進路を北に轉ずるとすぐに香椎驛である。

香椎は仲哀天皇、神功皇后三韓御親征の時大本營を置かせ玉ひし所、正平十六年の夏少貳頼尙、大友氏貞が菊池武

光に打破られしも此處、香椎驛から見た縦の博多灣と名島岬につゞく妙見島の風情とはともにすてがたいものである、一年三ヶ月の日子を費した香椎の切取り、大斷面をぬけ小山をすぎ其陰に入り北にくと進む、奇しき名の片男佐をすぎて唐原の平地に出るとすぐ様唐原驛である。

松原つゞき海近く沙白い唐原驛あたりは大氣清純である、今通過して來た片男佐は高燥で地質良好樹木多い閑靜境である、自然美を楽しみながら都市の便益を容易に受け得らるゝ樂土、田園生活、郊外居住の楽しい邸宅は遠からず出現するであらう、松の峯越しに、或は梢の下に和白潟を眺めつゝ和白驛に着く。

和白驛は宇美西戸崎線との交叉點であり連絡驛である、鹽焼く煙も昔語り鹽田は菜花咲き蝶も飛んで來る畑とはなつた、秋の潮干月の桂潟歌にのこるあたりも僅か數町の西北、和白宮地間電路の開通も近き將來である、宮地迄が延長計畫のすべてではない、前進前進鞍手の山々を越え谷を渡り福丸直方を経嘉穂郡飯塚町に出て黒ダイヤの都を我社の勢力圏内に入るゝのが當初からの目的であり計畫であつた、工事遂行の順序として一先づ第一階梯を踏んで茲に新博多和白驛間の開通を支障なく見る事になつたのである。

以下沿線各驛に就いて附近の名勝舊跡を御紹介しませう。

福岡市

東西一里半、南北二里、戸數二萬五千、人口十四萬二千餘、人家稠密道路四通八達して港灣あり鐵道あり電車あり海陸運輸交通の利便殆んど遺憾がない。

那歌川が市の中央を貫流して博多灣に注ぐ、其河東を博多、河西を福岡とよぶ、福岡には官衙學校多く、博多は古

來商工業の中心地である。

【東公園】 千代の松原

老松稚松相連つて春花秋月散策に最もいゝ、園内百花園には四季の花卉を培養してゐる、菊は其得意とする所頗る有名である。

【龜山上皇銅像】

英委長へに北海を睥睨し給ふ、弘安四年元寇の役畏くも身を以て國難に代らんと神明に誓はせ給ふた當時の有様が偲ばれる。

【元寇記念館】

元寇の武器兵器を陳列して一般の觀覽に供してゐる、一見文永弘安の役を追想さする、四季來り觀るもの多し。

【日蓮上人銅像】

一卷の立正安國論を左手にして立つ雄姿は鐵の如き意志と火の如き辯舌とを想はする香煙撲々四時絶えない。

【崇福寺】

後嵯峨天皇の寛元元年西都法窟の勅額を賜はつた臨濟宗の巨刹で創め聖一國師湛慧の建つる所、中興の始祖春屋國師の時九州一派の總録所となつた、舊藩主黒田家の菩提寺で累代の墳墓がある。

【千利休點茶地】

(醫科大學構内)

大學の門を潜つて南方數十歩、校庭の一部に残つてゐる、茶匠千利休が松の枝に鎖をかけ雲龍の小釜をつり松葉を焚いて茶を點じ豊太閤に献じた所。

【濡衣塚】

聖武天皇の御宇繼母の惡計に非業の死を遂げた筑前守佐野近世の姫の哀話を遺す、香煙糸の如く哀愁胸に迫るのである。

ぬれ衣の袖より傳ふ涙こそ

なき名をながすためしなりけれ

【聖福寺】

千光國師榮西の創建で、我國最初の禪寺である、後鳥羽院は宸翰、扶桑最初禪窟の勅額を賜はつた、建久六年の建立。

徹衣垢衲 不言の教訓 幽靈蚊帳の逸話を遺した仙崖は此寺の住職であつた。

【承天寺】

仁治三年秋聖一國師・沙門湛慧の建立する所鎮西の名刹である、巨勢金岡、兆殿司、古法眼の佛畫 無準の達磨は寺寶である。

【縣社榊田神社】

中殿榊田大明神、左殿天照大神、右殿祇園大明神を祀る、博多部の産土神で境内の大銀杏樹は往時唐船が纜を繋いだ所、又船繋石も現存してゐる。

さても見事な榊田の銀杏

枝も榮ゆる葉もしげる

梯田神社と祇園會、祇園會と山笠、山笠と博多、一春一祇園毎に銀杏も榮え博多も榮えて尊崇は愈々益々加はるのである。

一〇

【官幣小社住吉神社】

底筒男神、中筒男神、表筒男神、天照皇大神、神功皇后を合せ祀る、古來我國住吉神社の東宮と稱せられ天平九年には勅使の報告さへあつた名社である、社前の老松に千歳の翠があり松籟吹きたゞず、神域廣潤神苑の風致又佳。

天降るあらく神のあひ生を

思へば久し住吉の松

(安法法師)

【西公園】

明治十四年の開園、市街を瞰下して白沙青松の千代松原から蜿蜒たる海の中道、志賀、殘二島の景勝を一時に集むる著名の勝區で四時の風光に富む、陽春四月翠松の間萬朶の櫻花匂ふ頃觀櫻の客は雲の如く近國稀に見るの人出である。

湖上青山曲若弓

雨奇晴好四時風

債誰應字斯間景

難起龜翁與貝翁

(藤田岡縣)

園内の光雲神社は藩祖黒田孝高(龍光院)、黒田長政(興雲院)を祀る、輪奐の美を極め社寶水牛の兜を初め藩祖以來の夥しい遺物を藏する。

【平野國臣出生地】

學者に貝原益軒、志士に平野國臣、女傑に野村望東、三人は福岡の誇りである、

元治元年七月二十日禁闕を拜して從容死に就いた憂國の志士平野國臣は如何に人人の血をわかせたであろう、實に國臣は此處で呱呱の聲を擧げられたのである。

憂國十年東走西馳

成否任天魂魄歸天

(平野次郎國臣)

【地藏松原】

(東北一帯の松林)

慶長十六年黒田長政は竹森清左衛門に命じ博多から松樹を植えしめられた、これが此松原の起原である、蜿蜒數十町多々良川畔に盡くる閑靜の境域で地藏堂があるので何時とも無く地藏松原とは呼び來つたのである。

よそにやは涼しきかげも夏の夜の

明くるもしらぬ箱崎の松

(宗 及)

【勝軍地藏】

はるばる宋國育王山へ砂金三千兩を納めて父清盛の冥福を祈つた小松内府重盛卿に大藏經、石佛、石碑を贈つて來たが、時人は時めく源氏を憚り遂に此僻地に其の地藏尊像を奉安したと口碑は傳へる、阿彌陀石は宗像神社境内に現存。

【官幣大社宮崎宮】

應神天皇、玉依姫命、神功皇后を祀り奉る筑前國一の宮である、社殿樓門善美を盡し、神殿の如き更に一釘を用ひない、古來岩清水字佐と併稱せられ、一代の崇敬上下の信仰特に厚く年中絶ゆる時なき參詣者である、實に天下の名社で、扁額、敵國降伏の四字は醍醐天皇の御宸筆。

宮松

伏敵門前右側、玉垣で圍まれた神木標の松は應神天皇の御胞衣を埋められた所である。

千早振ふ神代に植えし宮崎の

松は久しき標なりけり

(法師行清)

【箱崎塔】

謡曲唐船の祖慶官人父子再會のよろこびと夫妻生別の哀愁とを追想さする。

箱崎の磯邊の千鳥親と子の

なきにし聲を残す唐船

(仙 塵)

【車僧觀音堂】

破車に乗つた一僧は群兒の推挽に任せて吉野の國から此里に着いた其年の夏多々良川合戦の官軍の屍死を收めて手厚く供養を營んで漂然去つたのである、歸依景像した里人は僧が座禪修念の跡に堂宇を建て觀音石佛を安置して祭つた。

享治申戌十二月吉野宮の賊變に自殺した正虎禪師は即ち破車に乗つて來た車僧其人であつた。

知らざりし人に任せてやれ車

あとを吉野に残すらんとは

(甘 藏)

松かげにすゝみ暮して短夜の

あくるををしむ箱崎の浦

(由 己)

箱崎や唐土かけて秋の月

(仙 崖)

【多々良濱古戰場】

延元元年勤王の土肥後の菊池武敏、武光の軍は都落ちして來た足利尊氏の軍と此濱で戦つたのである。

六百五十年前、時の執權北條時宗の果斷覺えず痛快を叫ばする元使斬首は弘安四年夏博多灣を蔽ふ艤艦幾千元軍十萬の來寇とはなつた。

郷土の寸地たりとも敵人に踏ましめなかつた沿海の大防備と、多々良川口亂杭の要害とは、我將士の善戦と相俟つて國威發揚に與つて力あつたのである、我祖先が一死國難に赴いた愛國の至誠は炳として國史に千載の美名を遺す。

【陣の越】

都落ちした足利尊氏の軍と、勤王の土菊池武敏の軍と多々良濱大合戦の際、尊氏は此地に陣して命を下したと云ふ傳説の地である。

【官幣大社香椎宮】

仲哀天皇、神功皇后、八幡大神、住吉大神を祀り奉る。

日本四所の宗廟で、古來皇室の崇敬臣民の尊仰頗る厚い、高い石垣で境域を劃つて白木の樓門朱の四脚の中門を潜ると廻廊長く連つて朱の瑞垣を周らす、幽邃の茂林老翠の奥朱丹の宮は色彩映發して、崇高自ら襟を正さしむるのである。

【綾 杉】

神功皇后凱旋の時齋らされた兵器を埋藏して其上に杉の枝を挿して、後世我國の守護神たるべしと誓はせ給ふた、其杉が生長して其葉綾を織つた様にあるので、綾杉と名付けられたのである。

千早振る香椎の宮の綾杉は

【大本營跡】

仲哀天皇三韓御親征の大本營のあつた所。

【棺掛椎】

仲哀天皇の御棺を懸け給ふたに異香四方に薫じた靈樹である。

【不老水】

老の山下にあり、老の水とも云ふ靈泉である、四時増減なく清冽甜美、武内宿禰大臣は常に此水を、仲哀天皇、神功皇后に献じ自らも飯酒を調へられたのである、又の名を御飯の水とも云ふ。

【武内宿禰邸址】

老の山下不老水の側、武内宿禰大臣が邸宅を構へられた址、又の名を老の家と云ひ後山を老の山、其用水を老の水と云ふ。

【冑塚、鎧塚、馘塚】

神功皇后三韓御親征にゆかりの古跡。

【御島】

海中の岩礁、神功皇后三韓征伐を占つて御髪を洗はせ給ふた所、礁上に御島大明神を祀る、旱天雨を乞へば驗ありと古老は云ふ。

【皆打濱】

神功皇后の凱旋軍を香椎宮警固の人は此濱に出で迎へた、迎へらるゝも迎ふるも皆悦びであつた、供奉の人々が異賊を皆打ちぬくと悦び答へられたので、今に皆打濱と呼び傳へ來てゐる。

【立花山】

全山樟樹で蔽はるる樹林の面積の廣大なる木質の良好などは全國第一位であつて、世界的に有名な樟樹山である、山麓は立花蜜柑の産地、山中立花口には立花氏居城の址を遺す。

【梅岳寺】

剛毅氣節あり智勇兼にすぐれた立花道雪公墳墓の地。

【獨鈷寺】

傳教大師歸朝直後の開基、境内獨鈷水の井は大師の穿つ所、清冽、大師手植えの檜や菩提樹も今に傳はつてゐる、什寶、壇鏡、獨鈷は大師の齋す所、座禪石は苔むし常緑のかつらに蔽はれて堂前に、其かたはらの班入松は珍奇。

【三野城址】

三ヶ月山につゞく陣山は、我國古城の一、三野城址と云ふ、眼界開けて山海の眺望實に捨て難いものがある、立花山とは嶺つゞき秋空麗朗の日山上の展望は又格別。

【片男佐海水浴】

後に山を負ひ汀には松林がつゞく悉く緑蔭松籟不絶薰風頻りに到る所、海水清澄波平穩砂白く遠淺で好個の海水浴場である。

【香椎花壇】

風光明媚の博多灣に臨んだ料亭にて、構内にカルチウム温泉場を設く、施設完備、清新の調理と四季の展望とで有名である、縁端潮のさゝやきを聞き、しほひの千鳥の啼く音も通ふ佳境、文界の鮮に、冴えたる調理の腕、宴會に獨酌に一として可ならざるはない。

低唱微吟可、痛飲淋漓更に可、前山に登らんか山海十數里博多灣沿岸の佳處は双眸に集まつて不覺快哉を叫ばずには居られないのである。

鹽たればあまにも袖を香椎瀧

磯菜つみにと波を分けつゝ (信 實)

長 崎 (五月二十四日)

福岡より長崎に直行す鳥栖より佐賀、有田等を通し筑後川沿岸の沃野千里、有田灣の遠望等眞に風光秀絶を極む長崎到着、福島屋に投宿す長崎港は天正時代より南蠻人との貿易港で港内餘り廣からざれども丘山海を抱いて頗る好風景で昔より日本の南方樂天地と云はれた港です特に日本文明の先驅で切支丹、伴天連、丸山遊女の踏繪の物語等異國情緒の豊富な名所です長崎では縣廳、市廳、商業會議所の案内にて市中の名勝舊跡並に三菱造船所等を參觀しました、造船所は三菱の經營で其の設備は東洋第一の雄大なるものであります技師の案内にて各工場とも懇切なる説明がありました、特に小生は技師佃田薫君と親戚でありまして種々便宜を得ました、又日本郵船會社支店は一行を招待して上海航路の新造船長崎丸の參觀と茶菓の饗應がありました、船は五千噸級の大船で其の建造は英國です其の船體の構造、客室、休憩室の完美した設備と其の垢ぬけした瀟洒堅實なる構造には吾々素人は素より一行中の造船家、鐵工

家等も感服しました造船術は日本の三菱、川崎の様な大會社よりもまだ英國の方が餘程長足の進歩が有る様であります日本の造船業も大いに奮勵しなければならぬものと考へます、夕刻より縣廳市廳、商業會議所の歡迎會がありました會場は三ヶ所に別れて開催されましたが小生等一行百人は富貴樓に招待せられました地は長崎全港を一眸に眺むる景勝で極めて風光明媚であります、港内の各所に散在せる舊跡やロシア人で有名な稻佐が見えまして愉快でした又港内には神社、佛閣、南蠻寺等が見え一方長崎女郎のなごりを残して居る丸山には昔時其の儘の紅粉の地がありますて有名な鶴の枕や、山陽先生の遺墨も澤山ありました滞在日數の少き爲め種々なる見物の出来ないのは一行の特に遺憾とした次第です併し小生は佃君の厚意で歡迎會散會後諏訪神社、海岸の夜景、丸山新地の歡樂郷等を充分探險致しまして深更歸宿一行を驚かしました次第であります。

福岡より長崎に到るの沿線は所謂九州の沃野で各處に種々の工業、炭礦等が澤山あります、又農業も非常に進歩して居ます特に大村灣の眺望も愉快でした。

長 崎 港

わりたちもみんな出てみる今夜こそ

彦山やまの月のよかばい (蜀山人)

長崎の山から出づる月はよか

こんげんな月はえつとなかばい (蜀山人)

めにかゝる雪やしばしの渡り鳥 (芭 蕉)

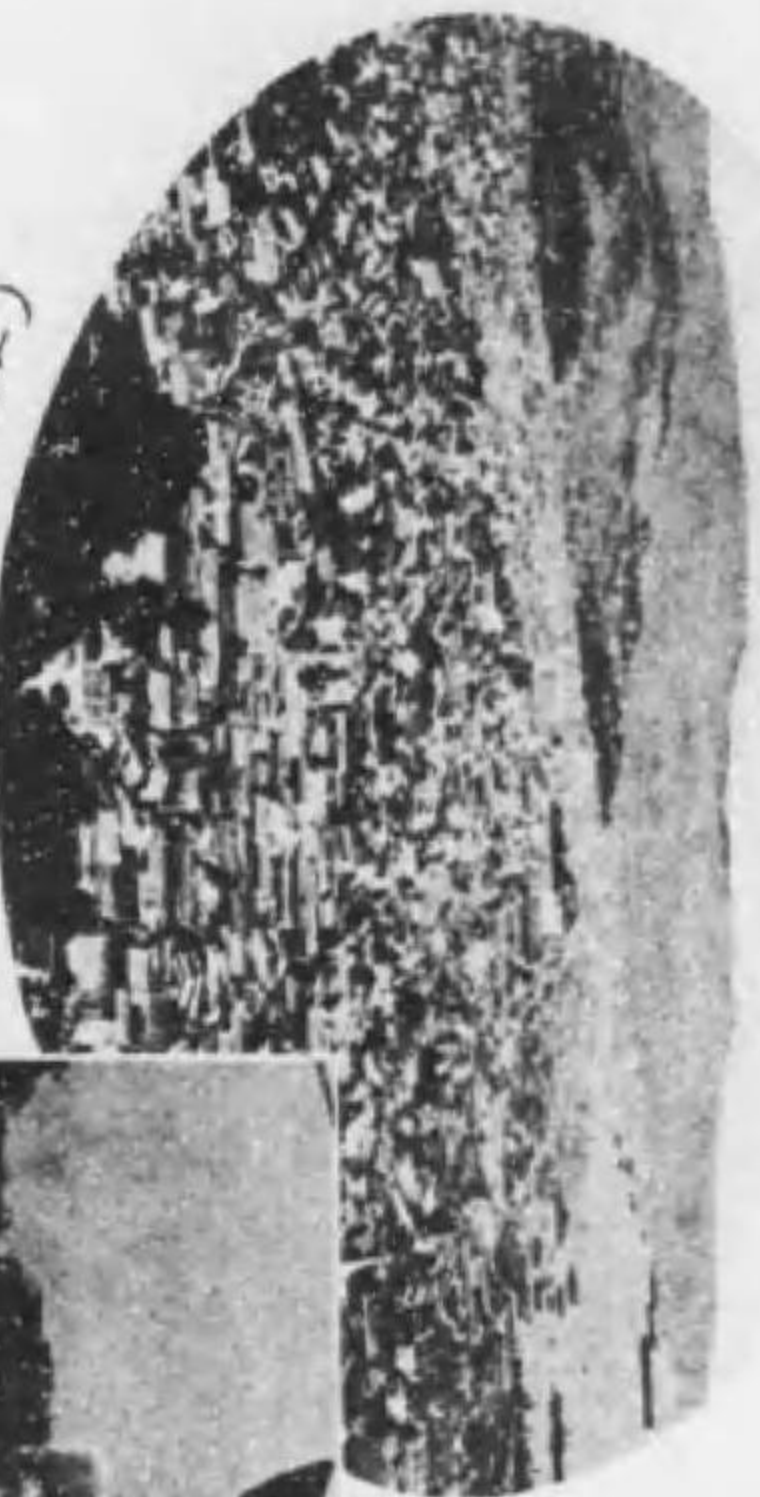
浦人を寝せて海見る月夜かな (去 來)

一分是海二分山 夾海山爲碧琉璃
 官樓蠻館家萬戶 高底山色海光間 (賴山陽)
 捧茗添香頤指中 雙々眼語意何窮
 洞房不用煩傳譯 自有靈犀一點通 (賦者不明)

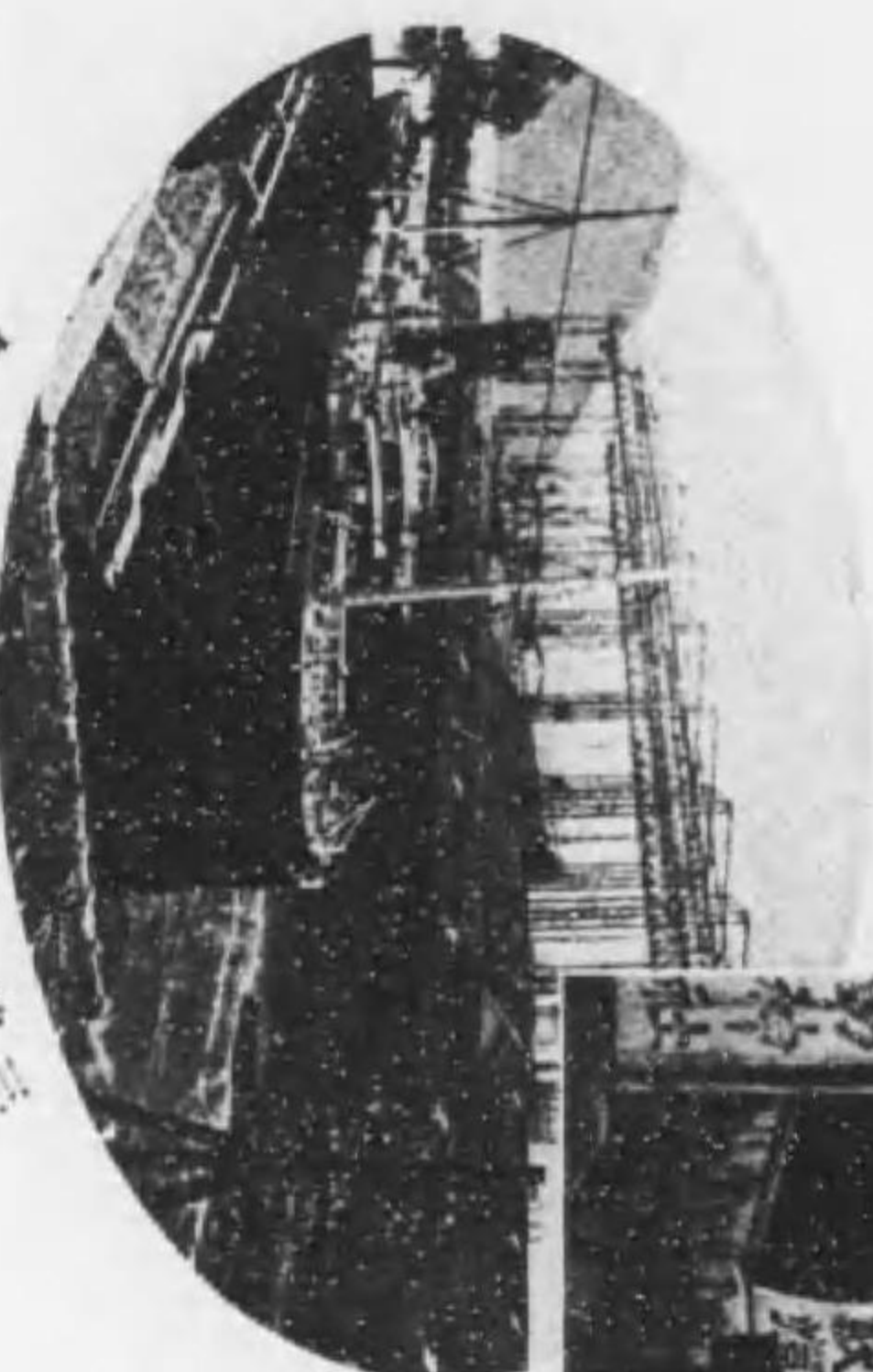
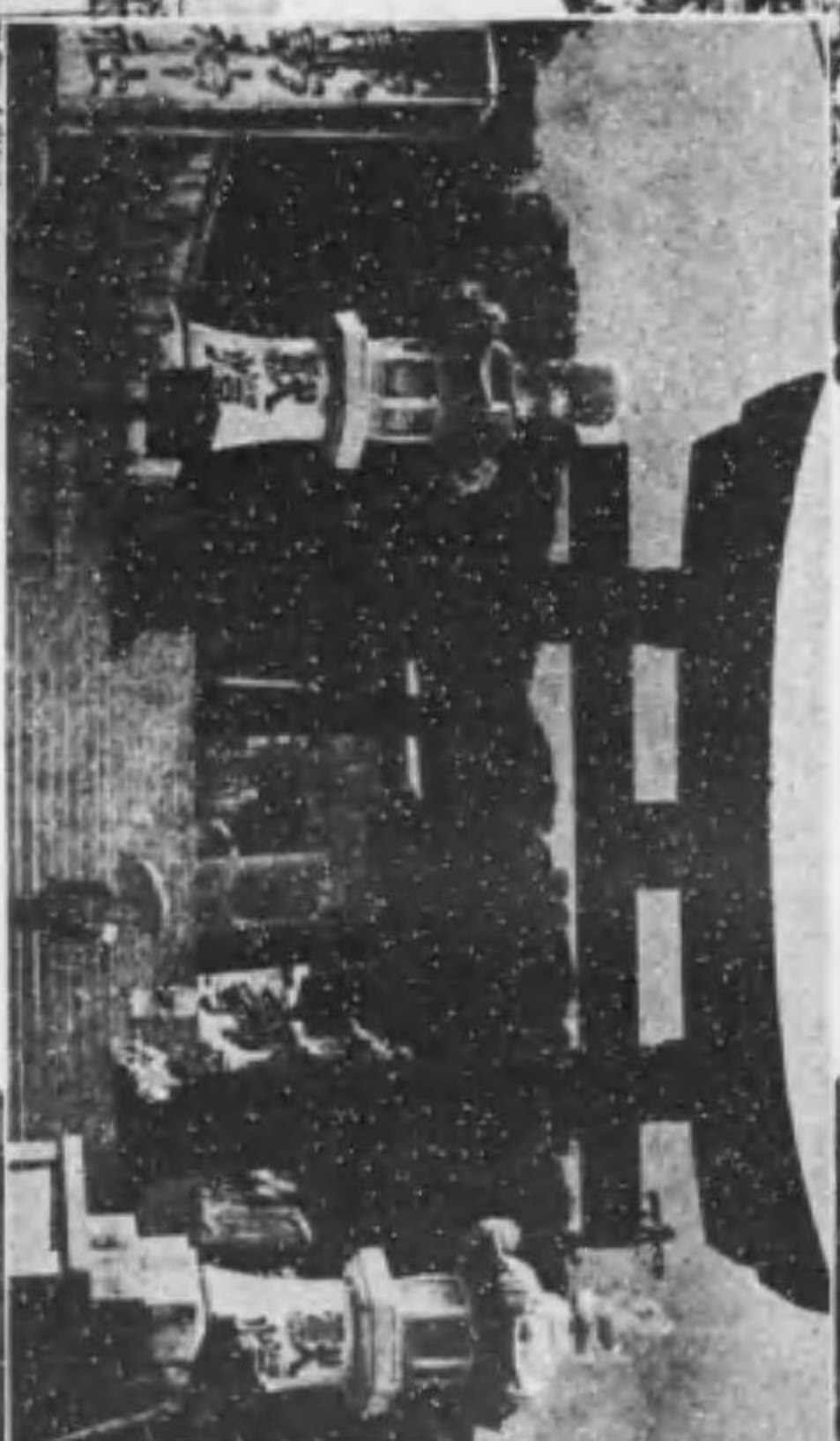
熊本 (五月二十五日)

長崎より汽車にて熊本へ直行す、熊本着後熊本市役所、商業會議所の招待にて有名なる細川侯爵家舊庭園の水善寺の公園を見物し夫れより清正公建立の日蓮宗本妙寺へ参拜す又境内清正公の石碑にも参拜し紀念館にて清正公朝鮮征伐時代の寶物蛇の目の大烏帽子、千成瓢箪の馬標し、長劔、猛虎退治の繪にある片鎌鎗等頗る珍らしき巨大なる武器古文書等を參觀して清正公時代の軍人の體格が如何に長大強健なりしかを想像せられる次第であります、又公の碑の傍らには朝鮮征伐の後、公の德に悦服して日本に歸化し公の臣下となりたる朝鮮人の殉死したる石碑もあります、又開山日眞上人は清正公朝鮮征伐に際し僧徒を率ひて従軍渡鮮し大に忠誠を盡されたる名僧であるそふです宗教家の従軍と、日鮮の融和が其の時代に出現した次第と考へました、夫れより日本名城の一たる熊本城内を參觀し副官より築城地形其の他趣味有益なる講話を聴き頗る参考になりました、夕刻より熊本市商業會議所主催の公會堂にて歡迎會あり主客約四百名にて設備萬端行届きたるものにて頗る盛會でありました、熊本官民諸氏の御厚意を感謝します、熊本にては會員會長代理佐分利先生が歡迎會の席上急病にて長逝せられたるは會員一同の大痛恨事でありました、熊本城の築城等に關する講話は實に有益にて趣味津々たるものであります。

長崎の風景



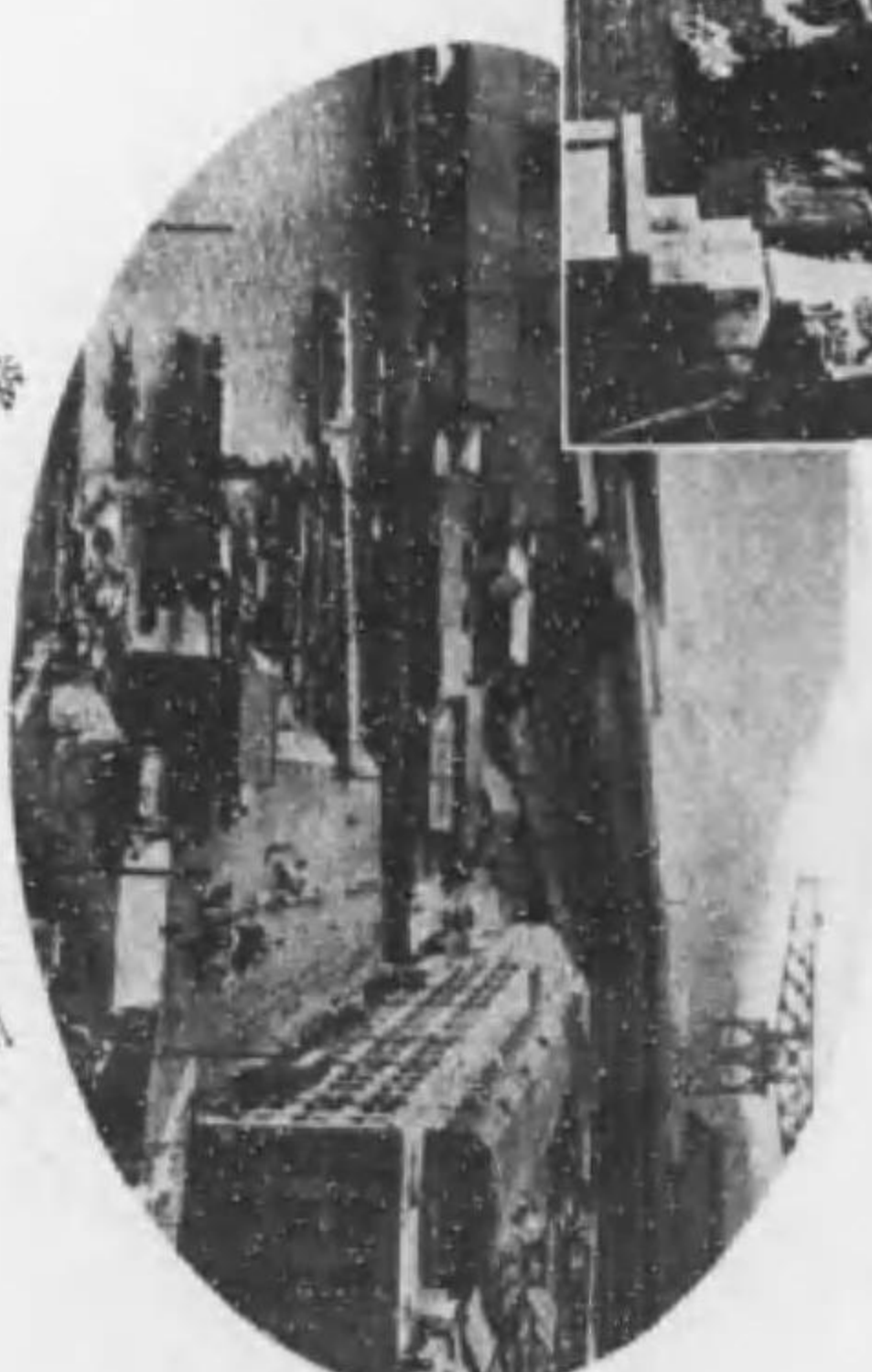
(二其) 景全港崎長



三 遊 船 所 第 一 ツ ャ ッ



(一其) 景全港崎長



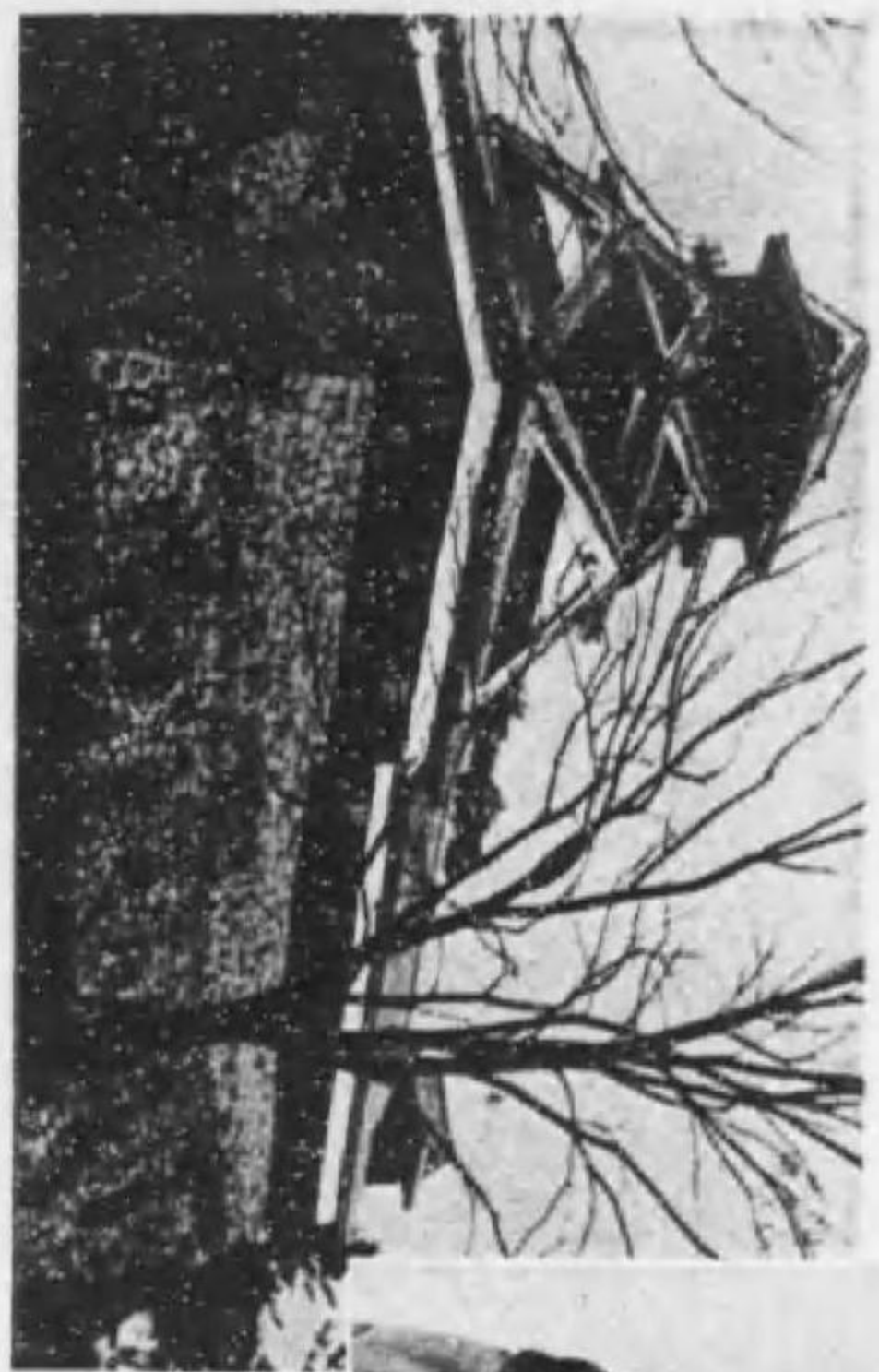
三 遊 船 所 第 一 ツ ャ ッ

國幣中社
 諏訪神社
 青銅の大
 鳥居

熊本名勝



清正公自白の御母像と清正公の木像



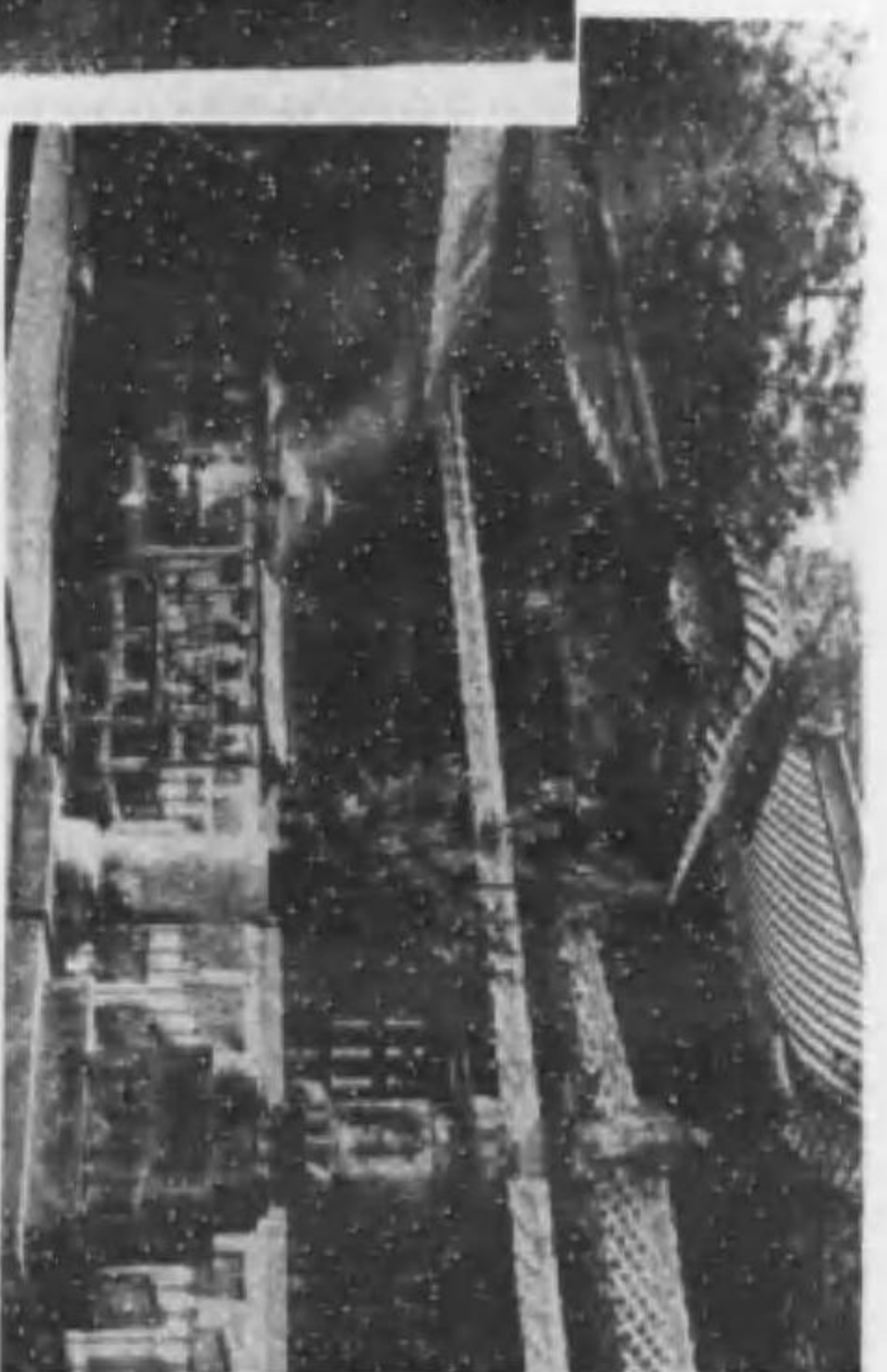
現在熊本の城土塔標



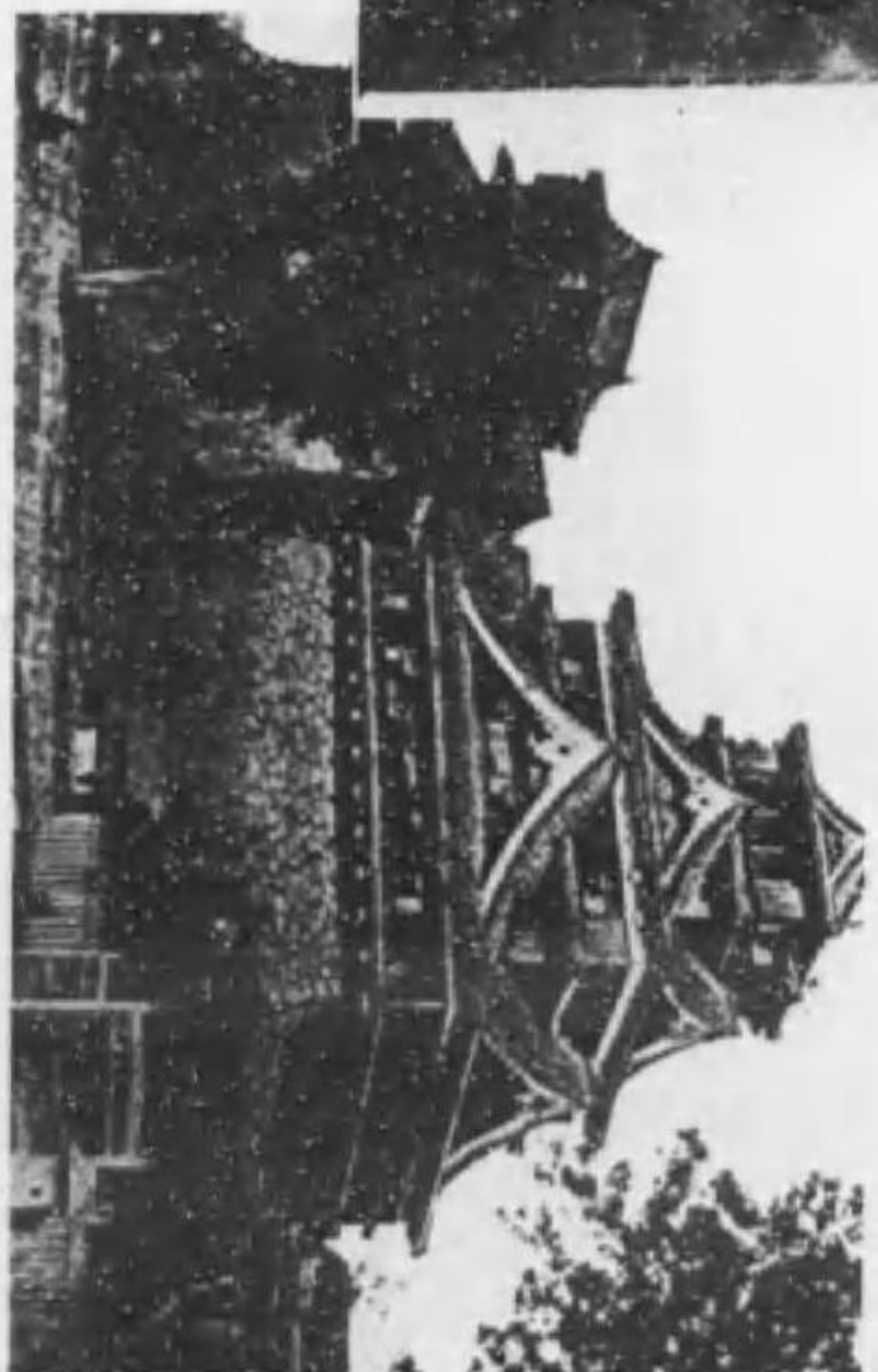
清正公自用の鳥帽子



清正公の旗題目



木地寺の御堂



西面以南役の本熊城の壯觀

熊本城 (清正公三百年祭と熊本市より拔萃)

市の西方一帯に劃せる一座の高丘あり老松千古の翠碧を湛へて半天の雲烟に入る處、高樓雉堞の隠見するあり、是れ日本三名城の隨一として聞えたる熊本城なり京町臺の高地を提げて古町新町を下瞰す一方は坪井より一方は段山町に亘り南花岡山、本妙寺に迫り北龍田山に對す城内の區域廣さ殆ど熊本市の半に越ゆ其の宏大雄偉知るべき也、昔し足利氏の末葉菊地氏の一族に出田筑後守秀信なる者あり始めて隈本に築城す、今の熊本城の東北一部にして、千葉城と稱する所是なり現に第六憲兵隊司令部の在る所、坪井藪町の上坪井川に臨める兀然たる高丘、分内甚だ狭し當時の秀信は僅に八十町の領主たりしに過ぎずと云へば其の居城の小なるは勿論なり次で大永の頃鹿子木三河守寂心なる者あり菊地の幕下にして隈本に居城す、寂心千葉城の分内狭きを遺憾としやや南方に距つて一城を構へ之に居る今の所謂古城にして、新町に臨める一部是なり、慶長五年加藤清正の肥後全國に封ぜらるゝや五十四萬石の大名の居城としては寂心の古城亦た狹隘に堪へず、則ち其の翌年八月を以て工を起し千葉城古城の間に横れる茶臼山を拓き兩城を併せ更に藤崎臺に亘り錦山に連りて熊本城を築く土工七年慶長十二年に至りて始めて成就す、樓閣巍然雲表に秀で石垣長く延びて丘を繞り森を包む當時専ら土木を督したるは清正の重臣飯田覺兵衛、森本義太夫等にして要害堅固天下比類稀なりと云ふ、寛永九年加藤忠廣封を奪はれ細川氏代りて之に居る代々相襲ふて三百三十九年、明治聖代に至り四年熊本鎮臺を置かれ、九州兵馬の權を管掌せしめらる、明治九年熊本の舊士族中、斷髮廢刀令に激せるもの、所謂神風連を組織して夜熊本城を襲ふ鎮臺兵擊戦甚だ努め幸にして之を撃退するを得たるも賊兵の爲めに聯隊旗を奪れたる程の亂軍に陥りたりと以て賊勢の猛烈なるを推知すべし。

越て明治十年、薩南の健兒南洲翁を戴きて來襲するや、谷干城時に陸軍少將として熊本鎮臺司令官たり、兵を茲に集めて籠城し防戦善く努む、偶々二月十九日火を失して城樓臺閣悉く烏有に歸し今は宇土樓と稱する、第三天主閣を存するのみ、又昔時の壯觀を観るに由なし爾來陸軍兵營として今日に至り今現に第六師團司令部たり歩兵第十三聯隊衛戍病院幼年學校等の館舎に充つ營内は漫りに出入を禁ぜらるも城内の交通は自由なれば來熊の旅客は宜しく一覽するの價値あり、城の周圍約四十町新堀門、厩橋、御幸橋、櫻橋、法華坂、新坂等に依りて城下の市街と通ず舊藩たる老松古杉の下劍鳴りて馬嘶く城内の光景今にして古英雄の當時を追想すべし、熊城一に銀杏城と云ふ藤肥州の手植の銀杏あり亭々として雲を凌ぐの概あるに因りて起ると。(丁)

△加藤清正公熊本城築城に當り苦心經營繩張をなしたるに、翌朝二三個處繩を切りたる場處あり、直に補修し置きたるに又々切られたる事數回に及びたるを以て、遂に夜番を置き取調べたるに無名の山伏姿の僧一人あらはれ切斷の場處の要害を一々指點して修正を説き影の如く消え去りしと云ふ、其の山伏は清正公の軍學の師とも云ひ諸説紛々、又熊本北方一里の處に山伏塚なるものありと云ふ。

△舊城内の疊には、熊本附近の農産物肥後芋莖ズイナを使用して疊の床シヤとなし籠城の際の副食物となす計略なりしと云ふ、又舊城内には極めて古き深さ數十丈の大井戸あり、數百年間混々として清水絶えず籠城の際も此の井戸を飲用せし由、併し其の水源は如何なる處なるや不分明の由なりと云ふ。

△舊城内の一角に種々なる形状をなせる石疊の場處あり、其の石疊は何を形どりしものなるや不分明なれども多分地形か又は城内を形どりしものにて秘密會議の室なりしならんと云ふ。

△舊城内に現存する天主閣宇土櫓は加藤勢が小西勢より戦利品として鹵獲せる舊宇土城なりと云ふ。

鹿兒島 (五月二十七日)

熊本より鹿兒島へ直行しました、途中は山岳重疊で有名なトンネルの難工事で例のスパイル線(螺旋狀)海拔三千尺以上の地が有ります、全線大約急峻なる山岳を登り、千仞の峡谷を降るのであります、車窓より雲煙の間仰いで霧島、高千穂の靈峰を遠望し球磨川の峽壁嶄然たる急流を瞰下しては實に危険の様でもあり又愉快でありました、又其の眼界の雄大で眺望の秀絶なることは日本第一であると考へました、斯くして鹿兒島着、直に市の案内にて島津公爵邸磯濱御殿、同紀念館、南洲翁の碑、同紀念館、南洲神社へ参拜しました、磯濱御殿仙巖園は後ろに磯山の綠翠を負ひ前に錦江灣を隔てて櫻島に相對す園内の老松、竹林等鬱蒼として亭榭泉石の配置は總て大自然の如く谿間の隨所に潺湲の水聲を聞き素朴清冽灣内白帆夢の如く浮ぶところは實に身神を新にするの感が有りました、園内の竹林には特に日本内地の孟宗竹は往昔琉球藩主より島津侯へ献上せられたるものを各地に移植したる趣きが揭示してあります、島津公爵家記念館には豊太閤朝鮮征伐時代の種々なる武器より、御維新時代に至る刀劍、大砲、小銃、陣大鼓、ポルトガル、オランダ、アメリカ等より舊幕時代に島津家献上の蒸汽船、紡績機械、製氷機械の類、又古昔よりの文献、貴重なる書畫、各種の美術品等が澤山陳列せられてあります、又明治維新の偉傑大西郷南洲翁記念館にも參觀しました、維新以來西南戦争迄の各元勳志士等の書狀や、種々なる文献、器物が多數陳列せられてありまして頗る有益なるものであります、又對岸の櫻島は折柄夕陽の反射を受けて實に壯絶快絶な美觀を呈して吾々一行を歓迎して居るかの感がありました、又先年櫻島大震の際流出した熔岩が島の半腹より海岸まで無數に堆積して居るのが見へました、東京の大地震を體驗した吾人は櫻島の地震の實況と東京とを聯想して當時の慘狀を思ひ浮べ

た次第であります。

櫻島

夏ながら時雨れて見ゆる櫻島

波のぬれ衣きてやほすらん (西行法師)

馬上遙望櫻島岳 屹度高立薩陽間

想看英虜來倭日 獨壓海關爲鐵關 (龍鐵治明)

いにしへに誰か言ひけん櫻しま

つくしの海に富士を浮べて (細川幽齋)

我胸の燃る思ひにくらぶれば

けぶりはうすしさくらじま山 (平野國臣)

聞いておそろし顔見て怖し

添ふて優しい薩摩さん

城山

孤軍奮闘破圍還 一百里程疊壁間

我劍已摧我馬斃 秋風埋屍故郷山 (西郷南洲)

南洲翁洞穴 (城山北麓岩峽谷)

百戦無功半歳間 首邱幸後反家山

薩摩ことば (其二)

友人出會 觀しき友人間 對話君と僕

此頃は遠はなかつたが元氣であつたらう

君は、オカゲデ、ビシクシテヨク、

お蔭でして居る

君は、サツバイ、コダメボン、

君は、矢張り兒玉殿方に

琵琶の稽古に行か

毎日通ふて居る今夜西郷殿宅で

クワイガ、アツデ、キツケ、コンカ、

會があるから聴きに來ないか

ヨ、ボンエツツレツ、タツデ、セケ、

友達を同伴して來るから恥かしがら子に

ツカイイト、ナイヤイテ、

龍かりと演奏せよ

平田三五郎宗次ハ……チエイヨウ、

賣 主婦下谷山魚賣

コサバ、コサバ、タコ、イワシ、

小鯛小鯛魚の類は宜敷ひか

コラ、サカナヲ、コウガ、モツキヤイ、

もし魚を買ふから持つておいて

ハ、ナ、サトイソツ、タモシドカイ、

はい何を御買ひ下さいますか

ソ、コサバ、ボン、アタラシドカイナ、

其の小鯛は幾らかあたらしくありますか

ヒンビン、シチヨシド、イツペ、

拾五錢デして居ますいづばいまけて

大變たかいからにまけてくれ

コ、コイサ、キセツコツカイ、

此の主婦のお仰る事か

ソ、カケネサ、カケネサ、

左様に掛値を云ふものですか

マケぬならもうよかる



腕押と座敷相撲

ウイト、ウイト、ウイト、ウイト、ウイト、ウイト、ウイト、ウイト、ウイト、ウイト、
 ウン、ヤツガ、ウイガ、ウイカ、ウイモ、ウイカ、ウイカ、ウイカ、ウイカ、
 腕押と座敷相撲をやってみる、
 ウン、ヤツガ、ウイガ、ウイカ、ウイモ、ウイカ、ウイカ、ウイカ、ウイカ、
 腕押と座敷相撲は僕にはかない、
 ウイカ、ウイカ、ウイカ、ウイカ、ウイカ、ウイカ、ウイカ、ウイカ、
 君こそ薩摩幸ばかり、
 クチヨツツデ、ウツス、モツカ、
 噴で居るから相手にならない、
 ヨウ、ソイナラ、イッポ、サツミロ、
 よし然らば一度やろ、
 ナイコラ、ソウチン、サツモンモ、サツモンモ、トクミシ、
 もし、その奴等も相撲を取つてくれ、
 ナイトンカラ、キバイセ、ヘチ、ヒツカソク、
 然しなから、餘り力を入れて尻をたれかぶるな、
 ナイトンナ、ツカハナカテ、ウイトンクセカラ、
 僕等は、大丈夫だから、君等、そ用心しろ、
 プツモ、ウツキヤイ、キバヤイ、
 どちらも誓へ、
 誓い、
 新婦夫婦

散歩

オヤンサート、アタイト、アノソ、サルケ、
 御前様と妾と一所に散歩すれば、
 ヒトガ、ミチヨソボナ、
 人が見て居ますね、
 オヤガ、アノラン、ヨカヨメジ、
 御前が、餘り高懸の好い嫁女、
 ガサツデン、コツヨ、
 であるから、よ、
 プカサート、チモツコツ、キツコツカ、
 貴方の面白い事、仰しやる事よ、
 モ、モボソソ、ウツタ、チカケウツデ、
 もう歸りまして、甚だ耻し御座いますから、
 セツカツ、キタト、サツツ、イソソ、
 折角来たのだから、磯の濱へ、
 イタチ、サソボ、サタモツ、モボロヤ、
 行つて、雨串餅を喰んで歸る、
 ホソニ、コカ、ヨカ、ウツソ、トコ、コソボナ、
 ほんとうに、此處は良い景色の處で御座いますね、
 キエハ、イツ、コツ、サツ、モツタヤ、
 今日、は、所々、方々、散歩しましたから、
 ムツタ、ウレ、ウレ、
 非常に疲勞しました。



笑濃向死如仙客

晝日洞中棋饜閑 (杉子爵)

相約投淵無後先
回顧十有餘年夢

豈圖波上再生緣
空隔幽明哭墓前

(月照十七回忌辰、西郷南洲)

島津公爵家記念館を參觀して感じました事は日本内地の各都市でも各藩主の所蔵せらるゝ貴重なる寶物、文献等を公衆に展覽せしむる爲め耐震耐火の記念館を設立したならば一般社會の教育上頗る有益な事と考へました、各地夫れ夫れ有力家の御研究を望む次第であります。

宮崎・青島 (五月二十八日)

鹿兒島より沿線有名なる霧島火山、又は天孫御降誕の歴史ある高千穂の靈峰を遠望し都の城に小憩の後宮崎に到着しました、宮崎は皇祖發祥の地丈ありまして附近各處に古跡が澤山あります第一に神武天皇大和遷都以前の皇居の地であると云ふ官幣大社宮崎神社を參拜いたしました、夫れより市外の神代に討伐せられし熊襲の古墳や累々たる大小數百の古墳を遠望し、其の内一番雄大なる規模の古陵の男狹穗塚、女狹穗塚(傳説瓊々杵尊、木花開耶姬の御陵)へ參拜しました、夫れより考古館を參觀しました古墳より發掘せられたる土器、銅器、刀劍、古鏡等が澤山陳列せられ専門學者の參考としては貴重なるものであると考へました、又市外の名勝地たる青島も見物に出掛けました、是は日本の地理學上頗る有名な一小島です、江の島位の小島ですが海岸にある波上の磯石は骨立して數百條の波狀をなし頗る奇觀です、又全島には珍らしき熱帯植物が繁茂し椰子、棕櫚、石芋、文殊蘭等の奇樹異草密生して丁度先年行つた臺灣の奥地の様な感がありました、古來九州でも此の一小島に限り南洋植物の繁茂するのは實に珍らしい事實であります。

す、宮崎市街は最近汽車開通以來追々開發せられ居りますが、目下の處では商業や工業は不振の有様ですが縣下の農業、林業は頗る盛大なるものだそうであります。

宮崎附近しるべ (宮崎鐵道株式會社編拔萃)

日向の國は實に皇祖發祥の地本線僅かに十數哩に過ぎずと雖ども其沿線及び附近に於る舊跡勝景の地は枚舉す可らず其重なるものを紹介して行旅の便に供するは無用の事にあらざるべきも拙劣蕪漫且つ限りある紙而其の實景萬分の一を示す能はざるを遺憾とす。

【宮崎町】 縣廳の所在地にして東は櫛村に隣り南は川を隔て、大淀町に接す地勢平遠にして田園廣漠たり不日日豊線の開通を待つて面目一新優に殷盛なる一大市街を形成すべき素因と餘地の綽々たるを見る。

【小戸神社】 宮崎町橋通に在りて諸冊二神を祀る、此社は元と櫛村下別府にありしが寛文二年の地震に陥没の災を受け現在の地に奉遷すと云ふ。

【宮崎神宮】 宮崎町の西北二十五丁大宮村下北方に在る官幣大社にして皇祖神武天皇を奉祀す實に大和遷都以前の皇居の地なり、明治三十二年は御降誕二千六百二十年に相當す乃ち大祭會の企てあり神殿神苑の改築恢弘並に狹野神社改造の議成り爾來工程九年工費四十七萬圓を以て四十年十月工を竣る、奉告祭を擧ぐるに當り 今上陛下東宮にましまし鶴駕を此地に枉げ給ひ爲めに空前の殷賑を極めたり。

【惡七兵衛景清の墓】 宮崎町の北一里半下北方にあり建保二年八月十五日此地に寂す昔寺あり神集山沙汰寺と言ふ今は亡びて新に祠を設く賽客常に多し。

【一葉の濱】 宮崎町の東一里櫛村にあり松林の中一祠あり一葉神社と云ふ松に一葉多し仍て名づく、海岸は松樹亂綴數里に亘り翠影婆娑として白砂を染む、境地冷泉あり鹽湯あり客舍瀟灑眺望に富む。

【住吉神社】 一葉の北一里住吉村字鹽路に在る村社なり上筒男命底筒男命を祀る。

西の海櫛が原の沙路より

あらはれ出でし住吉の神 (卜部兼好)

【生目神社】 宮崎町對岸の市街たる中村町の西一里生目村に在る縣社なり品陀和氣尊並に景清を祀る、初め景清報復を圖つて成らず双眼を抉て替となる頼朝其義勇を感じ扶助料三百餘町を與へて日向に下らしめ其兩眼を祭つて永く英雄の遺蹟を残さしむ、生目神社是れなり。

【松崎の觀音】 南方驛を距る東八丁字松崎に在り土面觀音菩薩を安置す鶴林山松崎寺と稱す、日羅上人の開創にして七堂伽藍の一なり。

【加護八幡】 南方驛の南三丁字郡司分に在り應神天皇を奉祀し傍ら伊東氏四代の靈を祭る。

【木花神社】 木花驛の西に在り皇孫瓊々杵尊の妃木花咲耶姬命を祭る境内靜遠社下に櫻川あり清冽玉を轉ず傳へて姫命の産湯に供したりと言ひ又火明命彦火々出見尊を生み玉ひし靈地なりとも傳ふ。

【加江田神社】 木花村大字加江田字大之馬場に在り天照大神を奉祀す傳へて大神御靈誕の地と云ふ。

【斟鉢山と雙石山】 斟鉢山は木花驛の西南一里山上に天孫を奉祀す、古來農作の神と稱へ山中に米柴と稱する樹あり之れを田に植れば蟲害を除くと唱へ賽者必ず携へ歸るを常とす雙石山は斟鉢山の西方に聳へ巉崖絶壁頗る奇趣あり春秋の候學生の攀躋を試みる者多し。

【青 島】 青島驛の東三丁一帶の沙路に依て遠く陸地と連り潮満てば忽ち海上の一孤島となる周圍半里幾萬年の浪の去來で磯石骨立悉く波狀を成す鬼鑿神斧奇觀言ふべからず、中央一面蒲葵樹の外種々熱帶植物を以て蔽はる春夏秋冬綠湛々眞に青島なり、全島の砂は皆貝なり淡紅櫻花の如く麗彩粲たり歩する毎に素々籟々履下碎玉の響を聴く、左方遙に住吉の崎を劃して豫州を縹渺の雲際に見ゆ、右方鶴戸の鼻を隔て、遠く南洋萬里の長風を浴ぶ、波眠りては漁舟斑々欸乃を載せて過ぎ風怒りては狂瀾雷吼岸を噬んで飛沫千丈、又萬丈、雄渾崇高眞に天與の一大詩景たり若し夫れ夏日涼を追ふて綠蔭に到り時に海水に浴せんか快味津々盡くる事なく眞に銷夏の一大樂園たり、祠あり青島神社と云ふ彦火々出見尊、豐玉姬命、鹽土翁を奉祀する縣社なり尊、海宮を出で、始めて此島に歸へり假宮を營みて姫と住み更に産屋を鶴戸の窟に定め給ひしと傳ふ、古書の所謂柯茂豆句島は此處なりと云ふ尊、曾て歌あり。

沖つ島鴨つく島に我がいねし

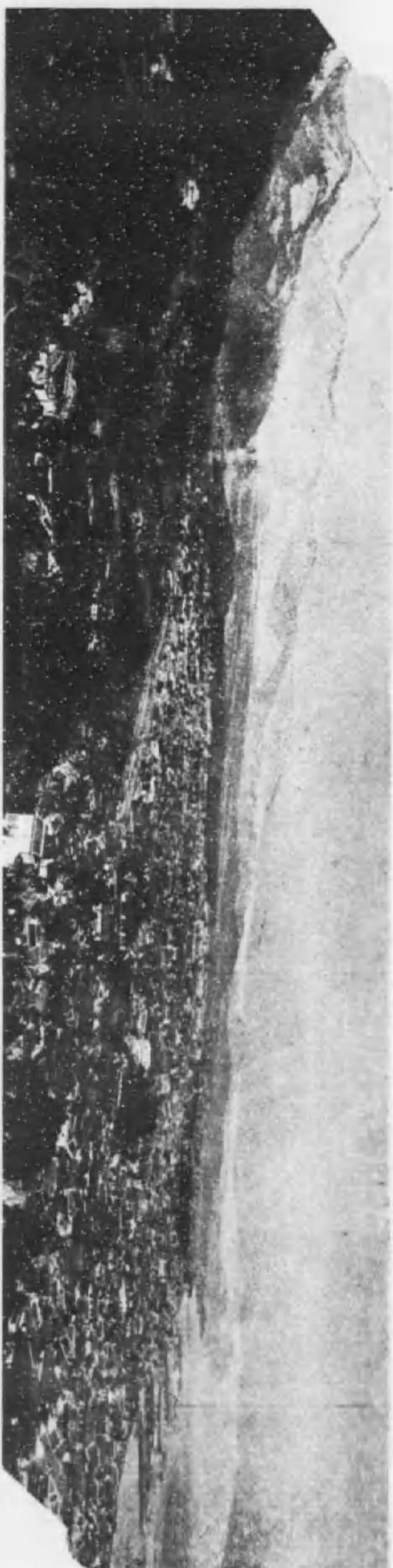
妹は忘れじ世のことぐくに

清陰淨沙の假の御座に玉手さし代へ睦び語り給ひけん昔を思へば床しくも尊しや、明治四十年東宮御遠望の御野立所を島西の高地に設け海産物其他の台覽を仰ぎ又た大正九年三月皇太子殿下茲に鶴駕を任せ給ひ久邇宮良子女王殿下は大正十二年五月此地の風光を賞し給ひたり。

【御崎の觀音】 白濱停留場の南一丁餘所謂七堂伽藍の一なり今は山中の一小祠なるも古來安産の佛助靈驗ありとして賽客常に多し。

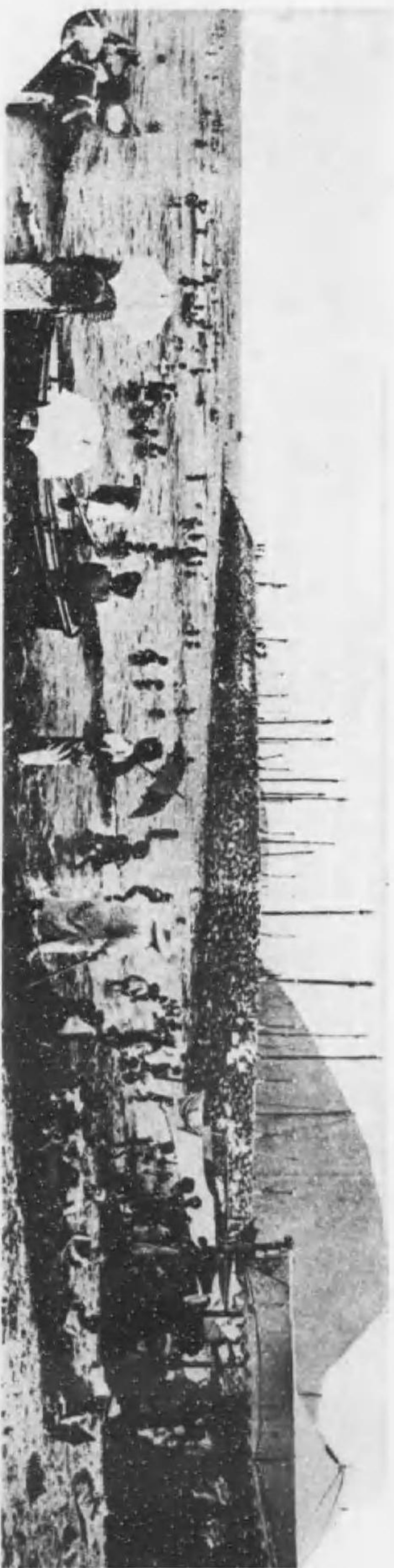
【鶴戸神宮】 内海驛より南陸路四里半、海上よりすれば一時間程にて官幣大社鶴戸神宮あり神皇五代鸕鷀草葺不合尊

宮 全 の 灣 府 別



(しへふ云と土樂の下天に眞はとるな和温の候氣 とるな富豊の泉温てしに姫明光風)

場 浴 水 海 と 呂 風 砂 然 天 の 濱 海



(す浴に泉温く湧てしと々浴ひ覆を砂へた横を體身てり掘を砂時の潮温)

觀奇の出噴湯熱獄地轄八と土宮府別 勝名泉温府別



る岸で立れ影とクマクマが汁泥でし膿沸とメメメが泥熱
觀偉の出噴湯熱獄地海

る岸出てに間分五が子玉茹餘石七間分一量出噴

を祀る實に皇祖神武天皇の御父なり社は東西二十一間南北十六間高一丈八尺の岩窟内に在り前は直ちに太平洋に望む巉嶂隆峻目先づ眩す、危岩怪石、攢立亂峙、驚濤愕波、雪を崩し玉を飛ばして軽々轟々快絶心悸膚慄す西方には祭神の御陵墓を傳ふる速日峰あり靈蹟とす、例祭の外賽者常に絶ゆる事なし。
大正九年三月皇太子殿下御參拜あらせられたり。

別府

別府は古來有名な温泉場で温泉の湧出の豊富なると其種類の澤山あるのは日本第一です、一行自動車で温泉地獄廻りを爲し、海地獄、血の池地獄、坊主地獄等を見物して愉快でした、又海岸の天然の砂風呂にも入つて見ましたが實に海底の砂中より湧出する温泉で全身を温めるので頗る快感を覚え、滞在數日、のんびりと温泉に浴して、毎日ぶら／＼と市中を散歩して田舎の滞在客と共に市中のホウカイ節や、大道テジナ等を見物して悠々閑々生命の洗濯をしました。

大分

大分は先年九州大共進會の時一度参りました地で、商業も工業も仲々盛大な市街です、又古來有名な政治家、實業家、美術家の輩出した土地である、大分市の市會議員で銀行家である同業の先輩高山英明君を訪問して、昨秋大震災以來の厚意を謝し夫れより種々なる東京地方の話をして種々御懇情を受けたるを感謝致します。

別府の紹介 (別府町役場発行抜萃)

概説

瀬戸内海將に盡きんとし、豊後洋の水、深く鶴見山麓に灣入する處、世界無二の樂園がある、別府温泉は即ち是れです、抑も此の温泉地帯は南北二里、東西二里に亘りて丘陵起伏し、景趣變幻の妙あるのみか、八湯に千餘の浴槽を有し、其の泉質の多種多様なること實に天下に冠絶し、如何なる病者も最適の療養所を見出し得べく、健康の人も到る處遊覽保養の快を收め得られるのです。

水陸の交通

陸には省線鐵道の豊州線貫通して、北は門司、小倉、福岡等に通じ、南は宮崎縣界に達し居るが、尙又大分別府間には電車の設備もあるのです。

海路は大坂商船會社内海航路の要衝となり、大阪別府間直航船紅丸の往復する以外、別府宇和島線、大阪内海線、別府尾の道線、大阪鹿兒島線等の發着地又は寄港地となつて居ます。

斯く水陸の交通が便利を極めて居るので、新鮮なる飲食物の材料も遺憾なく供給せられます。

町營共同浴場

別府町の温泉と言へば、別府及び濱脇の兩温泉地を指すことゝなるのですが、郡部に亘る四方里の温泉地帯は總括して大別府を形成して居るのです。

旅館には到る處、内湯があつて、絶えず熱湯が沸々として湧出して居るのです、此の他にも無數の温泉があつて或

は公共用と爲り、或は私人の有と爲つて居る、其の内公共用のものも随分少くないのですが、別府町營に屬するのは左の數箇所とす。

- 不老泉 靈潮泉 東温泉 西温泉 竹瓦温泉 楠温泉
- 田の湯 柳温泉 壽温泉 梅園温泉 海岸砂湯

別府八湯

鶴見火山系に屬する大別府の温泉地中著名なるは別府、濱脇、龜川、鐵輪、柴石、明礬、觀海寺、堀田の八箇所、之を總稱して別府八湯と言ふのです。

是等の温泉は各別個の特長を有して居るので、各療病者は各自適應の浴場を選擇する必要があります。

温泉の種類

各所の温泉は化學的に分析すれば、何れも包含薬分數十種の多きに達してゐるが、大別すれば、炭酸泉、硫黄泉、含鐵炭酸泉、鹽類泉の四類となり、飲用して藥效を助くるものと入浴のみに適するものとの差があるのです。

一地方の温泉にして斯くも泉質の千態萬様なるは實に天下の驚異だと専門學者さへ申されます、又海岸の砂湯にはラヂウムを含有せりとの好評を博して居ます。

十大地獄

泉脈の蒸氣が地中に充満するもの、僅に血路を開いて爆發し、熱湯を地上に噴出する、之を地獄と稱して居ます、就中其の壯觀を極めて居るのは左の十大地獄です。

- 海、血の池、坊主、紺屋、八幡、竈、今井、鬼石、照湯、三ヶ月、

其の熱泉沸湧して二六時中休む時なく、白雲濛々半空にたゞよへる状態は常に地文學上の好資料たるに止らず、又一般浴客の爲にも回覽の價値あることを俟たないのです。

熱泉の温度は僅々五分間にて鶏卵を半熟せしめ、食用に適せしめ得るのです。

温泉及地獄廻り

龜川、別府、濱脇間には汽車の便があつて全長を十五分間で達せられます、賃金は片道三等十六錢。

別府驛前と鐵輪との間には定期乗合自動車開通し一人賃金片道六十錢で十分間を要するのみです。

故に各地獄間を徒歩にて遊覽し、往路と復路とに前記の汽車と自動車とを利用する時は、三時間にて十分回遊の目的を達せられます。

龜川、鐵輪、別府間には別に乗合馬車の便もあり。

若し又多人数の同伴者あらば貸切自動車を利用せられると便利です、料金は稍嵩みますが少時間で自由自在に温泉地帯を行樂することが出来ます、貸切自動車の数は二十餘臺あります。

觀海寺、別府間は乗合自動車及び乗合馬車の便があり、自動車は片道十分間を要すのみです。

歴史

神代には少名彦命の治病に特效あるを認められし事ほど、別府夫れ自身の歴史は古いのです、降つて仁聞、善珠、淨藏貴所、源爲朝、一遍上人等の事蹟より大友氏の城寨寺院等の遺蹟、石垣原の古戰場、維新前後志士文人の床しき史實等の存するもの枚擧に遑ない位です。

名所と舊蹟

名所舊蹟中、著名なるものを左に紹介しませう。

別府公園、つゝじ園 山水園 古觀海寺 大友五代刑部大夫時墓 乙原瀑布 志高湖 八幡朝見神社 高崎山
六枚屏風岩 鮎返瀑布 松原公園 濱脇公園 佛崎公園 的ヶ濱 石垣原古戰場 吉弘嘉兵衛統幸墓 鬼の岩屋
(古墳) 白龜塚 實相寺山 武内火男火賣神社 扇山 鶴見山 由布山

耶馬溪

頼山陽により紹介せられた、天下の名勝耶馬溪を見物しました、羅漢寺、柿坂、青生の洞門等山水の風光は頗る秀絶奇勝であります、餘り土地が開けたので天下に喧傳せらるゝ割合には景色が雄大でないのと、餘りに俗化して居るのは唯々遺憾であると考へました、併し奥耶馬溪を見物しないので一部分丈を見物したのですから全體の批評は出來ませぬのは残念であります。

下の關より松江 (六月二日)

別府よりの歸途下の關に一泊しました、下の關では丁度當日が御大典の祝日でありまして、門司下の關の老若男女は全部假裝變裝して市中を笛や、大鼓の音楽や又はラツパ、石油罐を敲いて踊り廻つて居りました、其の行列の盛大なる事は實に驚き入りました、特に昔時より下の關の御祭典は盛大なものであります、今回の御大典には全市内の商工業者は素より、男女の小學、中學、高女の學生は素より藝者、娼妓に至る迄數千の假裝隊が波濤の如く夕刻より夜中迄ドンドン、ビイビイと踊りまわるのですから實に盛なものです、東京では中々見られぬ壯觀でありまし

た。

下の關は支那、朝鮮、九州との關門で水陸交通の至便と又風光明媚の港です、市内には歴史上有名な官幣中社赤間宮、安徳帝の御陵、平家没落壇の浦、平家一門の墓、日清談判で有名な春帆樓等がありまして幾度通過しても所謂懐古の情を催す古跡が澤山あります、翌朝出發松江へ向ひました。

松江着宍道湖畔の皆美館に投ず、湖畔の風景は又絶佳であります、此の地も又御大典にて市中は種々なる假裝の行列で非常な賑でありました、翌日市中各處を見物して夫れよりは出雲大社へ參拜しました。

松江のしるべ (松江市役所編稜萃)

【松江港】 大橋の南岸、棧橋を架し、湖海船舶の投錨所とす、朝夕船舶の出入絶えず、百貨の吞吐船客の乗降、雑沓を極む、東方遙に、出雲富士の稱ある、伯耆の大仙山を望む。

晚晴正屬麥秋天 湖面風生皺碧波

好是呼杯水欄角 大仙峰影落尊前 (鱸松塘)

【嫁 島】 湖中近く一小嶼あり、嫁島と呼ぶ、數株の老松下に小祠あり春夏一日の清遊を試みるもの小舟を祠畔に繋ぐも亦一興なり、漁夫の網を曳き釣客の綸を垂る、處水郷の情趣甚だ多し。

嫁島やたはんで通る雁の竿 (山田曲川)

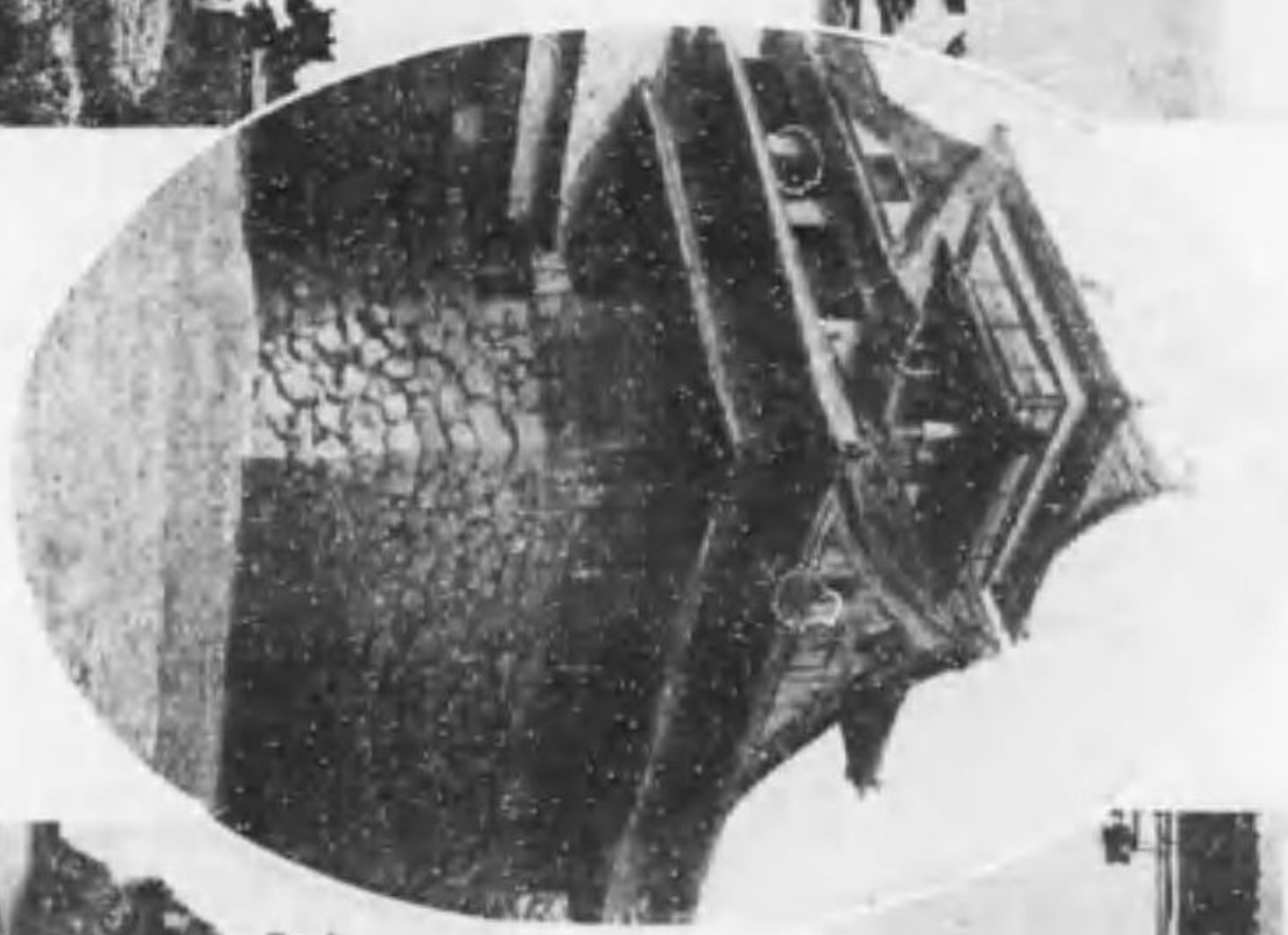
【大 橋】 宍道湖の西岸、相迫る所に架し、長さ七十五間、白濁末次を接続して、車馬絡繹たり、今試に橋上に立て願望すれば、東に大山の白雪を望み、西に三瓶の翠黛を見る、宍道湖の煙波縹緲として、沙鳥風帆の去來、一幅

三 名 勝



(二葉) 宍道湖を望む

松江港の遠望



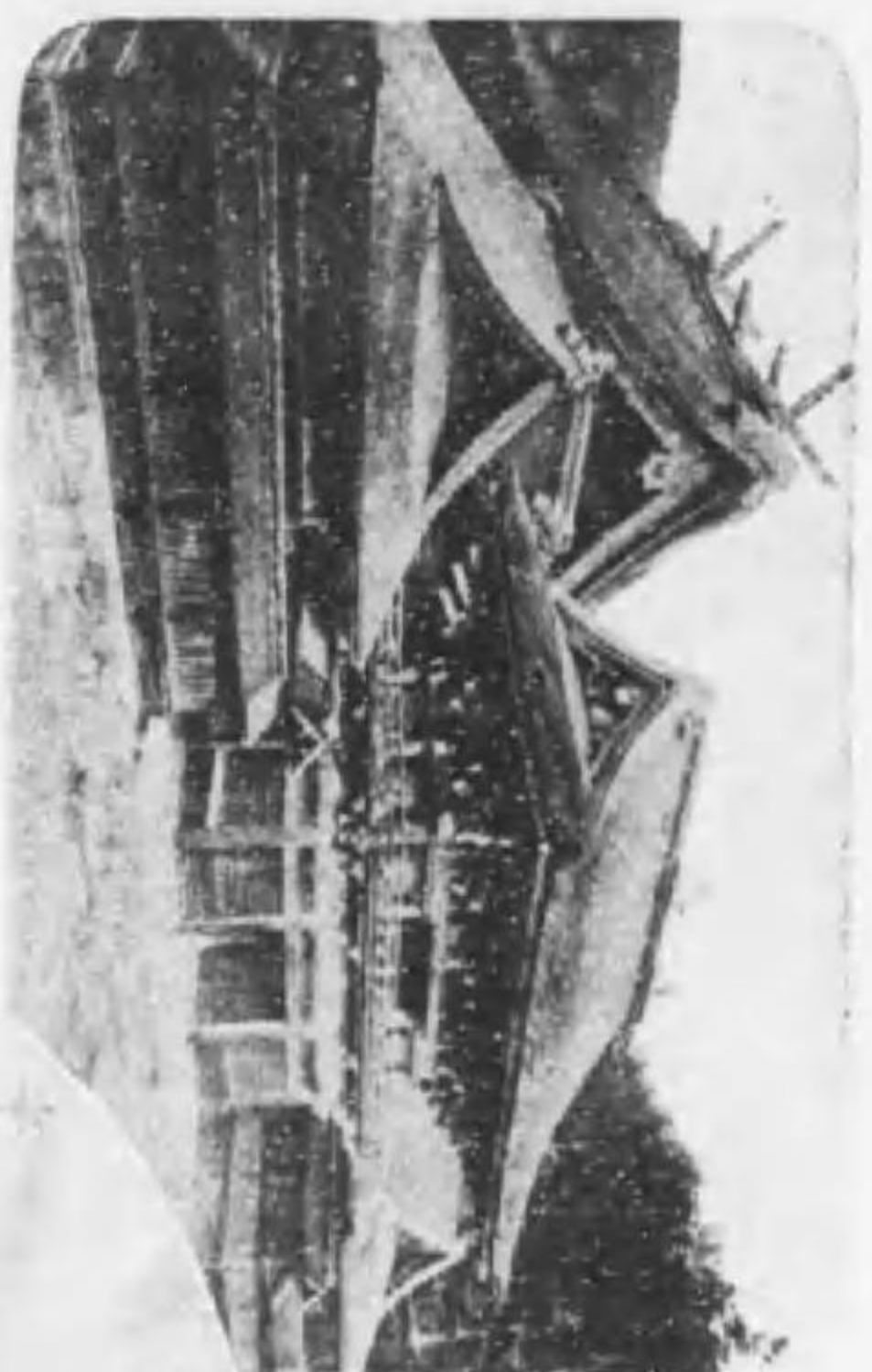
千鳥城



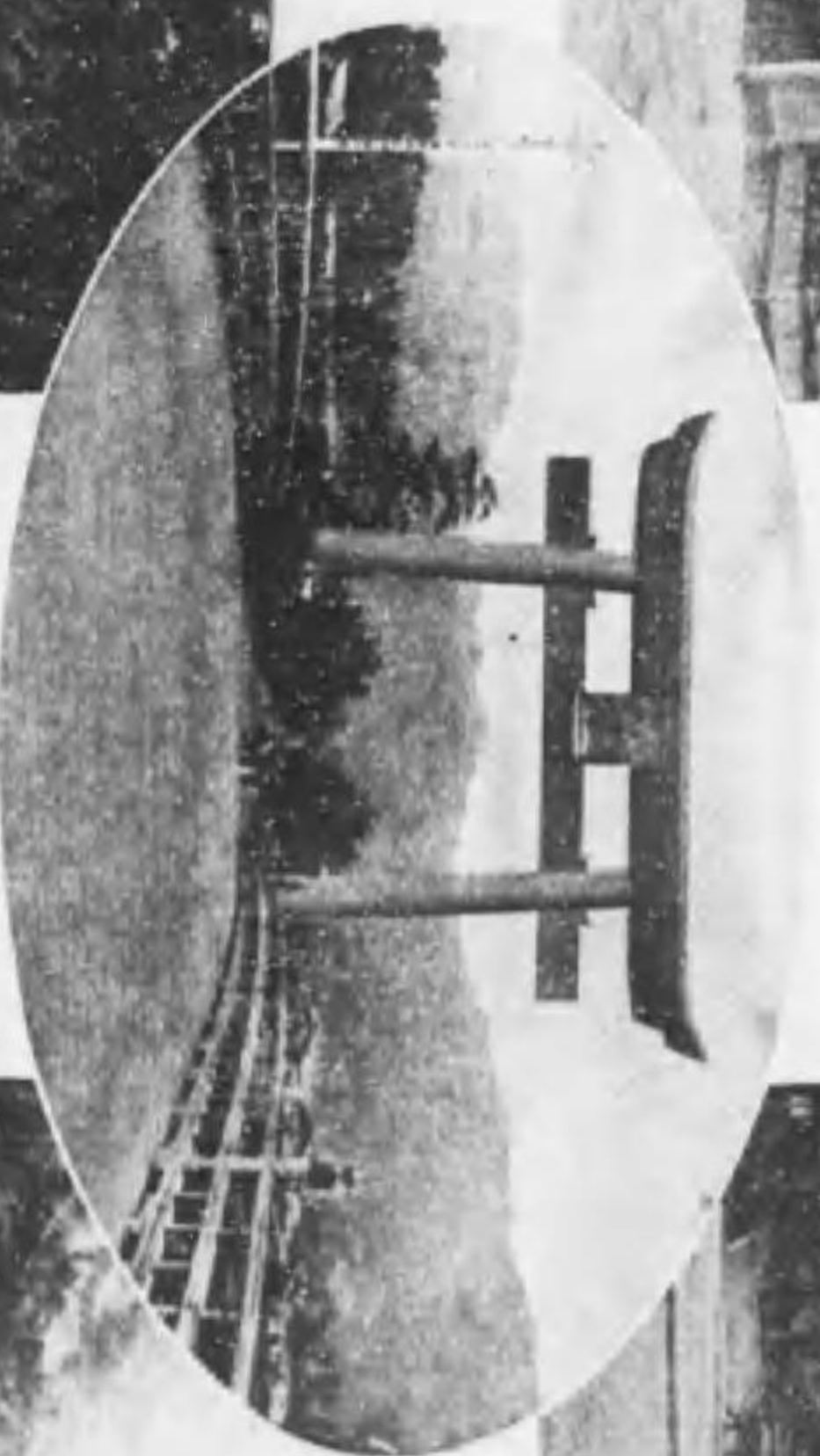
(一葉) 宍道湖を望む

出雲大社海岸稻佐濱

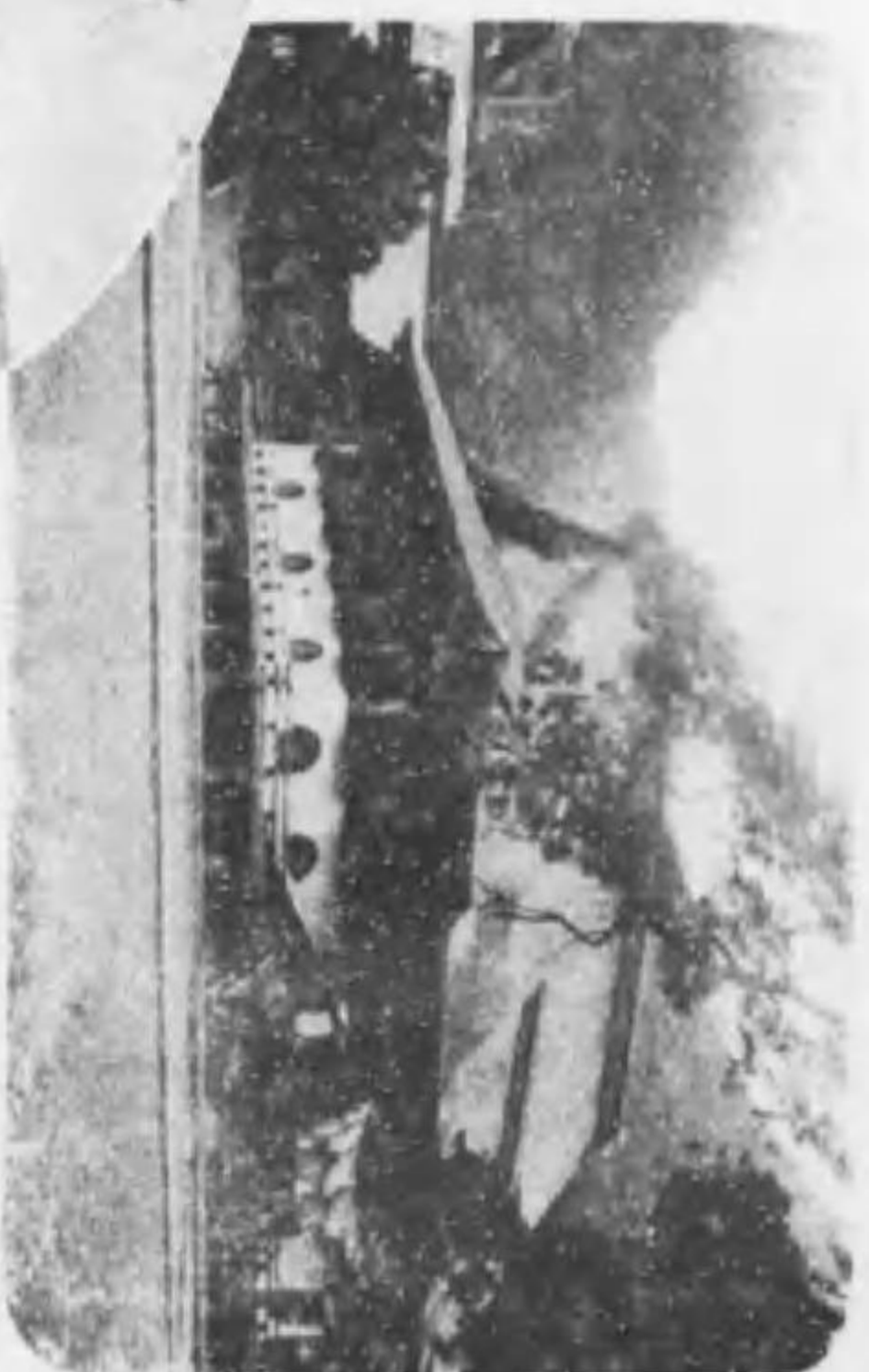
出雲大社の
の崇嚴



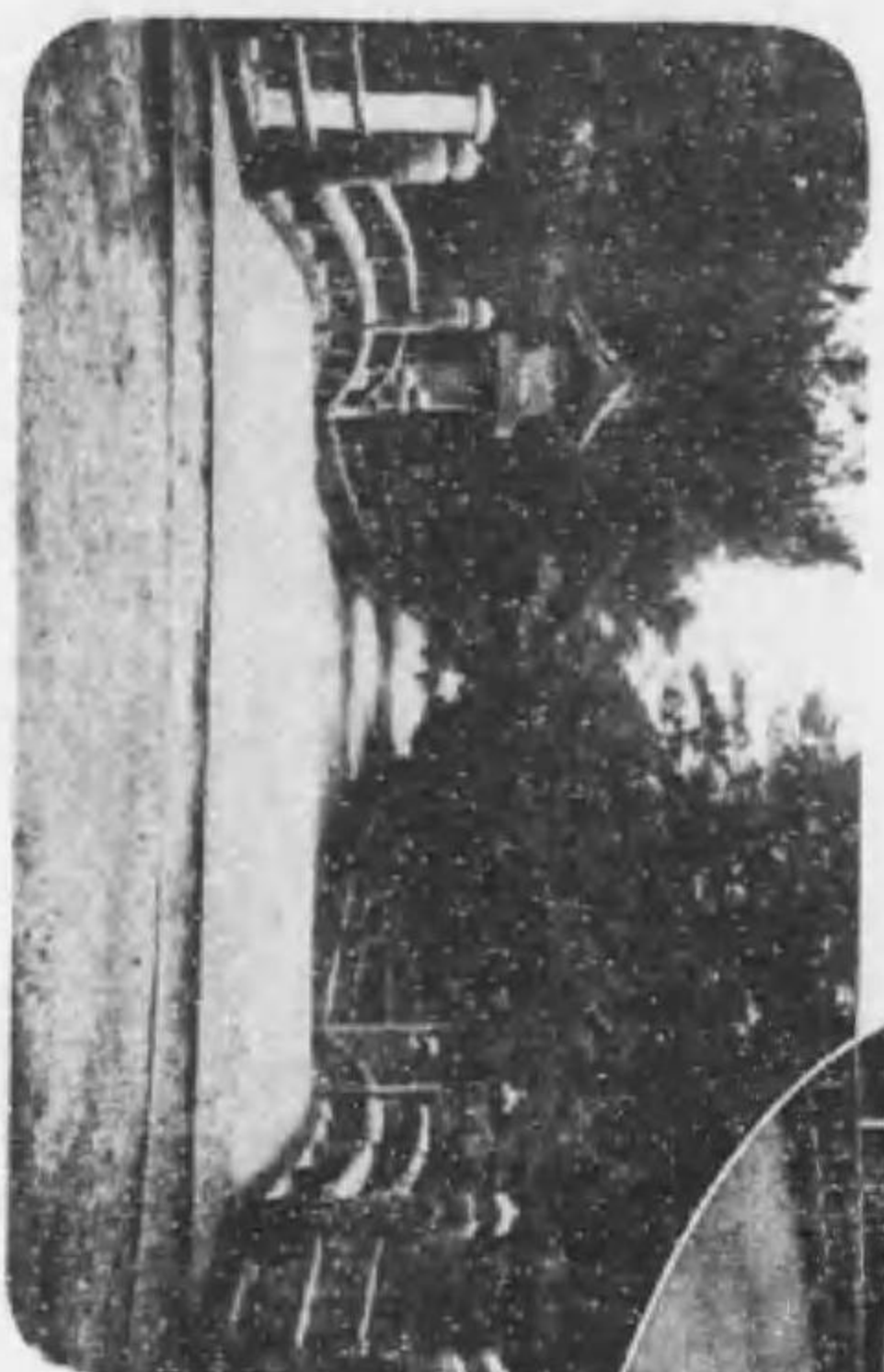
宮
水



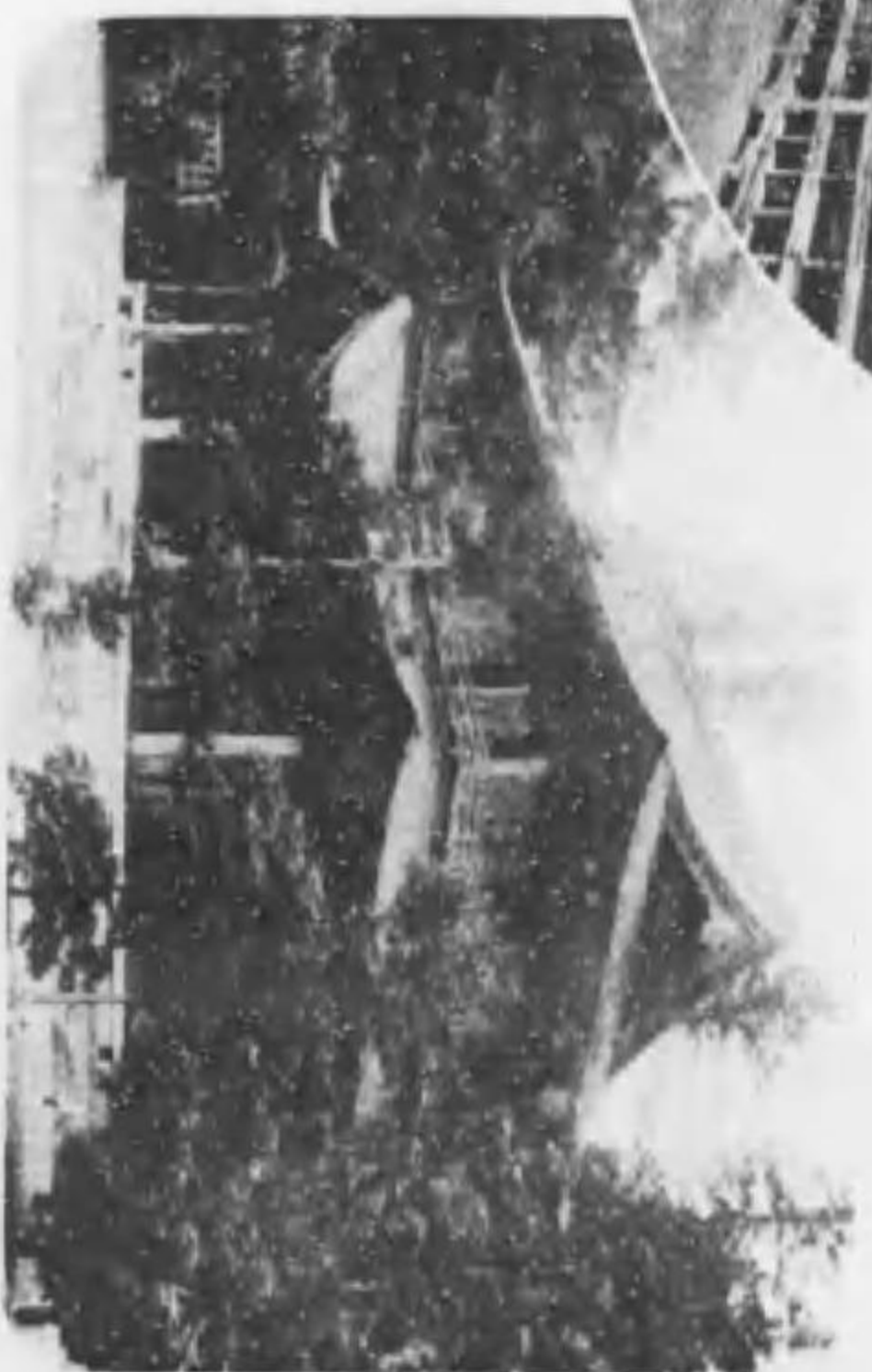
千鳥の門



殿
井
及
宮
水



路
塞
及
橋
波



宮
物
寶

の畫圖の如し、數年前東方、更に一橋を架し、新大橋と名く。

市聲城影碧波間 獨愛雲湖日往還

立杖泰通橋上雪 小媛山對大仙山 (劉石秋)

【天主閣】市の北部、龜田山に在り、慶長十六年、堀尾吉晴の修築に係り、千鳥城と名く、寛永中より維新に至るまで松平氏の居城たり、今は松平家之を開放して、千鳥遊園と名く、天主閣は高さ十四間餘、五層の樓閣なり閣前に松江城の碑あり、閣上全市を双眸に收むべく、四時登臨者多し。

【興雲閣】千鳥遊園内松江神社の南側にあり市有に係る、明治四十年 東宮殿下行啓の際、御旅館に供し後御座所の三室を保存し、永く記念と仰ぐ、他室は毎年數次美術工藝品の陳列會に充て公衆に參觀せしむるを例とす。

【松江神社】千鳥遊園内に在り、縣社にして瀋祖松平直政公を祭る、同社は元樂山神社と稱し、城東樂山に創建せしを今の地に移せしなり、公の遺徳を知らんと欲せば、祠畔の川田宮内少將の撰に係る 樂山神社碑を一讀すべし。

社前の園林櫻花楓葉多し、春秋二季には衆庶沓至して繁華を極む。
翌日は市中各處を見物して夫れより出雲大社へ參拜に出發しました。

出雲大社まうで (拔萃)

【官幣出雲大社】大社驛より十一町、乗合自動車あり、祭神は國土經營の神大國主命で、其の創建は遠く神代にある世俗大黒様と尊稱し福徳の神として常に遠近よりの參詣者が多い、大社驛に下車して一直線に賽路を進むと、日本第一との稱ある大鳥居がある。

全国の神社中保護建築物に指定されて居る鳥居は、日光の東照宮、鶴岡八幡宮、氣比神社、八坂神社、嚴島神社の五箇であるが、大きなものは左の通りである。

| 神社 | 高さ | 材料 | 形式 |
|-------|------|-----|----|
| 出雲大社 | 七十五尺 | 人造石 | 神明 |
| 靖國神社 | 六十九尺 | 銅製 | 神明 |
| 同 舊鳥居 | 五十尺 | 同 | 神明 |
| 嚴島神社 | 五十三尺 | 木 | 現明 |
| 北野神社 | 三十七尺 | 石 | 神明 |

更に第二の大鳥居から針葉樹林の間を、少し下りて行くと祓橋がある、渡れば翠色滴る様な松並木が立つて居る、左右はすべて神田である。

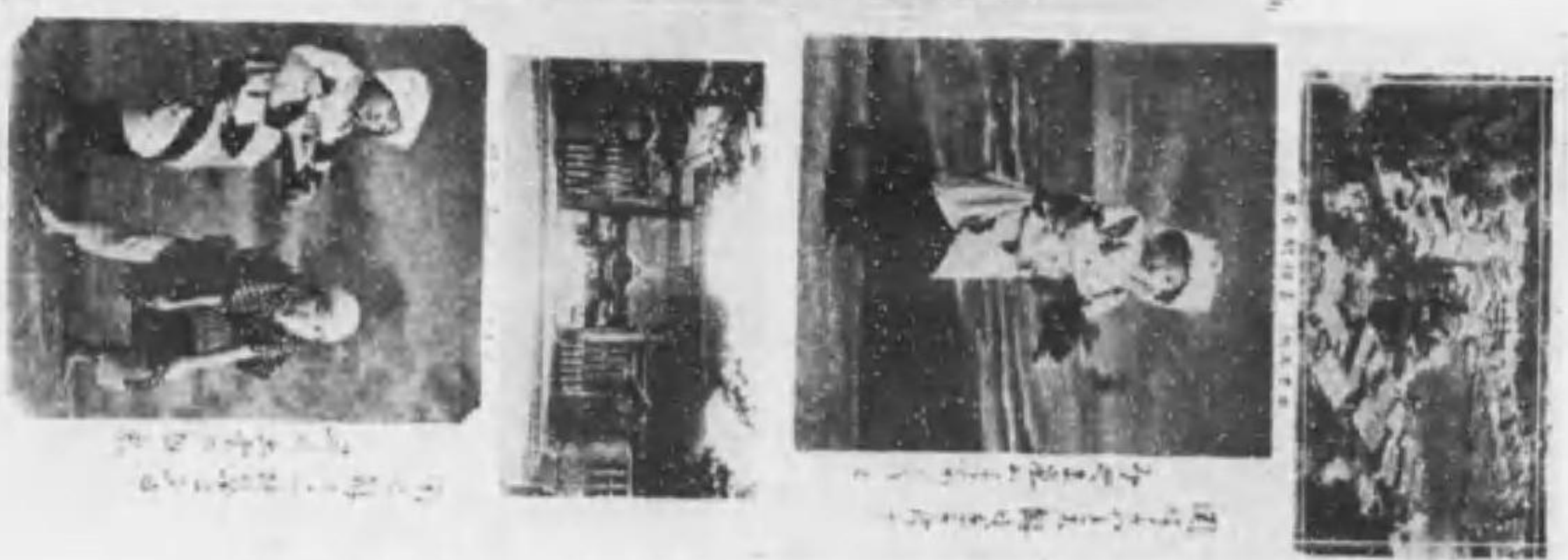
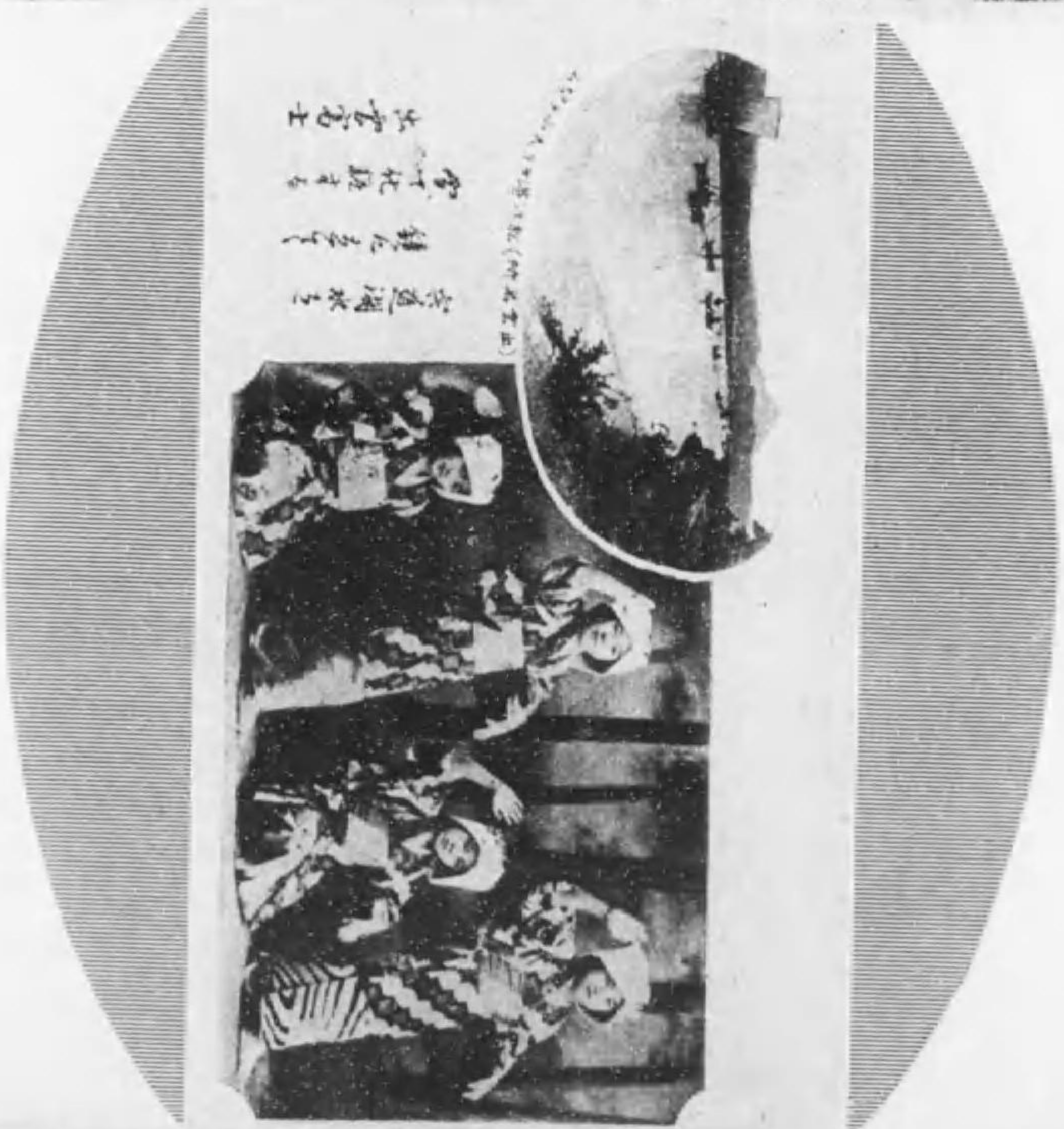
松並木を過ぎて、初めて山を背に南面した大社の境内に入る。直ぐ背の簇々した松山が八雲山で、向つて右が龜山、左が鶴山と言ふさうである。

青錆びた銅の鳥居を這入ると、四面荒垣を繞らして其の内に拜殿、社殿、八足門、樓門、齊火殿、觀察樓を初め、大社の攝社、末社が相續いて居る。

社殿は本邦初期の建築法で祠宇の構造全く他の殿堂と趣きを異にし、棟木高く空に聳え規模大きく雄々しく、影蒼とした構へが落ちついた深い感を興へる、二十一年目毎に新しくなる、伊勢神宮の生々しきに比すると、古色蒼然誠に神代ながらの思ひがある。

人 美 雲 田 物 名

◎山に切る木はたくさんおれと思ひ切る木は更にない。
◎戀の山道高ひくなしに智者も學者もふみまよふ。



◎圖はよいとこ朝日なうけてみやま嵐がそよくと。
◎圖は朝日よ作樂は夕日名所出雲の西東。

八雲立つ出雲八重垣妻こめに

八重垣つくる其の八重垣を

樓門に刻んだ葡萄に栗鼠の浮彫は左甚五郎の作で日光の眠猫と共に双絶と稱へられて居る、社殿の周圍に小さい祠、主のない社が數々ある、之が他所の神無月、出雲の神有月に日本國中の神々が神社に敬意を表す可く神集ひ玉ふ時の御宿であるさうな。

十月の神無月を、此國では反對に神有月と呼んでゐる。其理由は、當社には十月に全國の神様達が集合せられるので此處以外の地が神無月の時は此處だけが神有月になるといふのである、謠曲の「神有月」も此事を取つて居る、……謠曲名所めぐり、谷口梨花……

「あら恥づかしや尉殿よ、實にさる事を聞きしなり、いつもは神の父母にて毎年十月日本の神々當社に集まり給ふと聞きしが、もしも左様の事やらん、おぞくも心得給ひたり、諸神は残らず此國に、きまして外は神無月、其名の故に引きかへて、又此國に神有月の、人の目にこそ見え給はれども、諸神は愛に遍満して、社々は申すに及ばず、山や草木、人かいらか、海川虚空、天地まで、皆影向の神所なり、有難や、實にしんあらば心にも、……神有月ぞかし。謠曲、神有月……」

樓門を左右にして千家、北島、兩國造の館がある、門に向ひて右は北島氏、左は千家氏である、此兩家は天照大神の御子天穗日命の後裔で天孫降臨に先ちて此國に降り、大國主命の國土を天孫に譲り給ふや、止りてこれに事へ、世々大社の祠官として、出雲國造として、血統連綿今日に及んだ名閥である、千家、北島の兩家に分れたのは中世の頃で、兩家共に古文書及び諸種の寶物が收藏されて居る。

境内を廻りくつて側門の方に出ると、縁結びの絲や、絲巻、出雲節の手拭など、賣る店が並んでうるさいほど土産物を勧める。

x x x x x

大社を祀る杵築町は今も猶神代からの風習を残して古典的な匂を漂はせて居る、殊に迎春の家々は軒に門松の代りに櫛を立て特に格式のある舊家は更に門松も立てるさうだが、尙且大人の腕ほどに太い注連縄を家の外に飾りそれも家の格式に依つて大小があつて如何にも神の都らしい感じを與へる町である。

【日御碕神社】 稻佐濱より海上約一哩半——陸路二里——海上發動機船の便あり。

上社には素盞鳴尊、下社には天照大神を祀つた國幣小社で社殿頗る莊麗である、大社参拜者の多くはこゝにも参拜するのである。

神社の背後に日の岬燈臺がある、高さ百二十八尺、日本最高の燈臺である。

和歌の跡とふや 出雲の八重霞 (芭蕉)

出雲大社の参拜を了り夫れより境内、海岸等を見物し神代の歴史等を案内者より聞きました夫れより松江へ歸着夜行にて京都へ向ひました。

京都より大阪 (六月四、五日)

京都着知人山村喬君と會して東山の公園、智恵院、青蓮院等の名勝を參觀しました、大震で焼けたゞれたる殺風景な風塵の裡に二年越し泥鰌の様な生活をして居る小生には京都の様な山容水態古きかほりのする都は如何にものびのび

びとして樂みなものであるかゞ想像以上であります、古村の森の間に隠見する古き塔も、市中の屋根の低い屋並も、又崇嚴な神社、偉大な佛閣殿堂、森々たる樹林や竹叢、其の他旅館の襖、障子、さては床間の置物に至るまで實にすがすがしい感を與へて呉れました、京都の知人先輩を訪問して大震以來の厚意を謝し夫れより大阪へ参りました、大阪では柴田照三君、原田智君と會合して是又知人先輩を訪問し大震以來の厚意を感謝して同夜直に歸京の途に就きました、一昨年以來の長旅行で頗る愉快に、頗るのんきに、とても面白い旅程を續けていのちの洗濯を致しました、各地で歓迎を受けた事を深く感謝致します。

(了)

龜山天皇 御製

世の爲に身をば惜まぬ心とも
荒ぶる神は照し覽るらむ

蒙古來

筑海颯氣連_レ天黑。 蔽_レ海面來者何賊。 蒙古來。 來_レ自_レ北。
 東西次第期吞食。 赫_レ得_レ道家老寡婦。 持_レ此來擬_レ男兒國。
 相摸太郎膽如_レ甕。 防海將士人各力。 蒙古來。 吾不_レ怖。
 吾怖關東令如_レ山。 直前_レ斬_レ賊不_レ許_レ願。 倒_レ吾橋。 登_レ虜纜。
 擒_レ虜將。 吾軍賊。 可_レ恨東風一驅附_レ天濤。 不_レ使_レ擅_レ血盡
 脊_レ日本刀。

偶作

熊城元是好區寶 焦土蕭條人未還 谷 干 城
 儼令藤肥州尙在 不教賊驗太郎山
 久在園城貌已懼 相看相笑撫髭鬚 谷 干 城
 花開花落不關得 只愛盆花一兩株

大正十四年九月二十一日印刷
大正十四年九月二十五日發行

(非賣品)

編輯者兼 東京市神田區美土代町二丁目一番地 島 連 太郎
 印刷者 東京市神田區美土代町二丁目一番地 福 田 良 三
 寫真版者 東京市神田區美土代町二丁目一番地 大 森 政 太郎
 活版所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三 秀 舍
 石版所 東京市神田區美土代町二丁目四番地 方 英 舍

| |
|-----|
| 306 |
| 808 |

終

